

平成30年度  
事業報告書

川崎市総合教育センター

はじめに

平成 30 年度は、新しい学習指導要領全面実施に向けた移行期間初年度であります。子どもたちが様々な変化に主体的に向き合い、他者と連携して課題解決をしていくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値観に繋げていくことができるようにすることが、改めて学校教育に求められています。

現在、各学校におかれましては、子どもたちが学習内容を結び付けたり活用したりしながら深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けていくことができるよう、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化されていることと存じます。複雑化・多様化した学校の課題に対応し、子どもたちの豊かな学びを実現するために「チームとしての学校」として、日々真摯に子どもと向き合い学校教育の推進にご尽力いただいていることに、改めて深く感謝申し上げます。

川崎市総合教育センターでは、このような教育の動向に対応し、各学校が教育課程の編成や指導方法の改善等の取組を推進していけるよう、総務室を中心として、カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、特別支援教育センター、教育相談センターの5センターが、調査・研究、研修、相談等、多岐にわたる事業に取り組んでまいりました。この報告書はこれらの取組についての概要をまとめたものです。

- ①実践研究主題「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」に基づく長期研究員等による実践研究、指導主事による調査・基礎研究や施策研究への取組
- ②ライフステージに応じた研修体系に基づく研修・希望研修等の実施による教職員の専門職としての資質や指導の向上に資する取組
- ③拡大要請訪問・教育課程研究会等の実施、研究推進校への支援等を通したわかる授業、特色ある学校づくりに係る学校支援
- ④教育の情報化に向けた研究及び授業力向上に向けた研修の推進、ICT機器の計画的整備、校務支援システムの運用、インターネット問題相談窓口の推進
- ⑤特別な教育的ニーズのある子どもの相談・支援及び学校の特別支援教育に関する支援の充実、特別支援教育に係る研修・研究の充実
- ⑥電話・不登校家庭訪問・来所面接による教育相談の実施、スクールカウンセラー配置及び学校巡回カウンセラー派遣、教育相談研修及び研究の充実
- ⑦所報・センター通信及び各種刊行物の発行

昨年度の研究報告会には、申込者・来賓の方を合わせて、1040 名の方に参加いただきました。前年度に引き続き 1000 名以上の方の参加となり、教職員の方々の意識の高さと総合教育センターへの期待の表れととらえています。

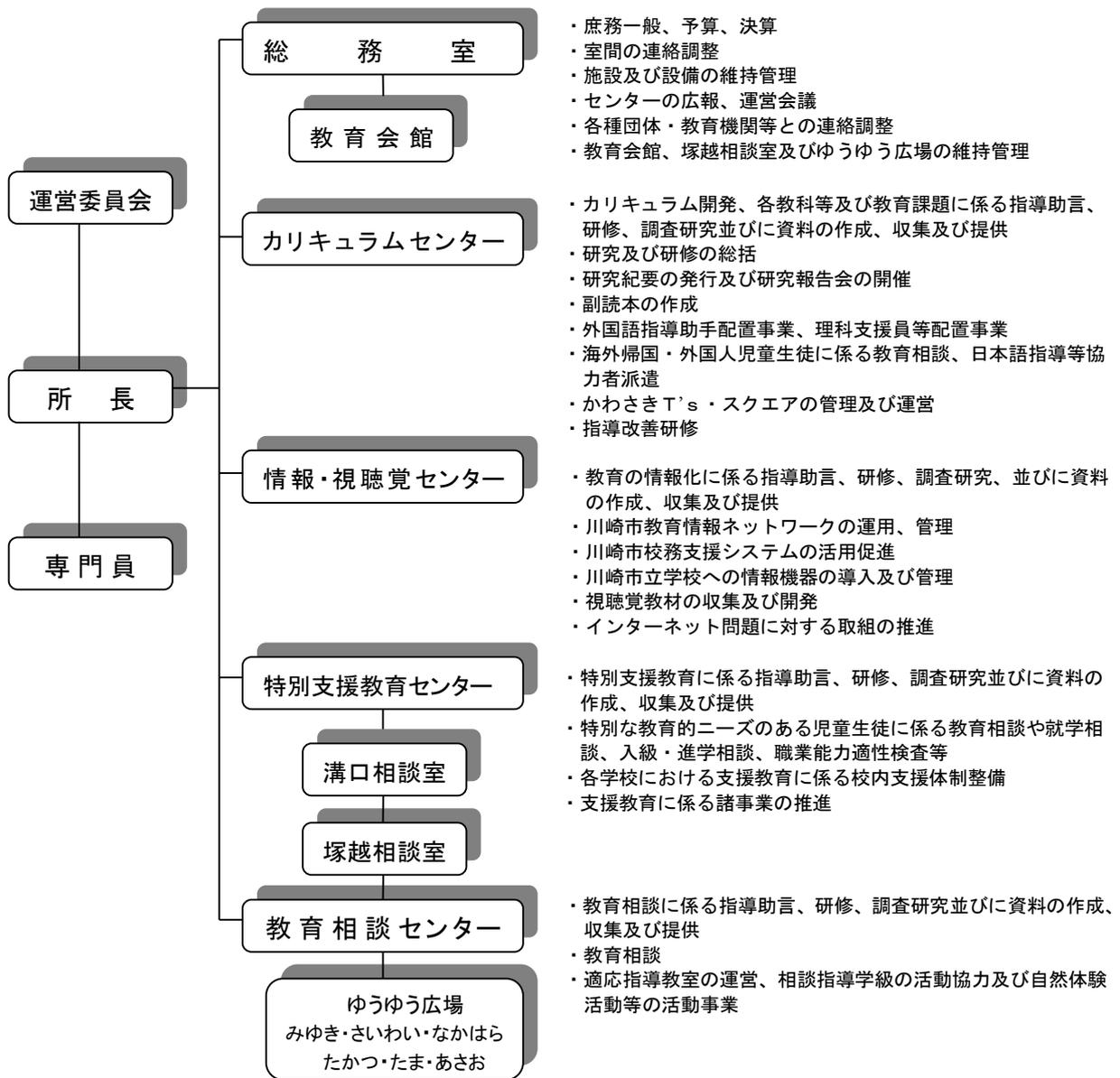
変化の激しい今日の社会情勢から、学校に求められる教育の在り方も多様化しております。川崎市総合教育センターでは、新しい情報の収集と発信、教育活動の改善に係る研究の推進等の一層の充実に努めるとともに、これからも学校支援に向けて研鑽に努めていく所存です。最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

川崎市総合教育センター  
所 長 小 松 典 子

## 目 次

組織・事務分掌 .....	1
所員一覧 .....	2
運営会議委員 .....	3
予 算 .....	4
研究体系図 .....	5
1 調査研究 .....	6
2 教育関係教職員研修 .....	14
3 カリキュラムセンター事業 .....	24
4 情報・視聴覚センター事業 .....	28
5 特別支援教育センター事業 .....	34
6 教育相談センター事業 .....	39
7 広報及び刊行物等 .....	44

# 組織・事務分掌



## 会議

- 管理者会議(月2回)  
センターの管理運営に係る重要事項について検討する。
- 専門職等会議(年間5回)  
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え検討する。
- 学校教育部・総合教育センター等連絡調整会議(年3回)  
学校教育部、区担当、総務部教育改革推進担当及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間3回)  
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

## 担当者会議(月1回)

- 研究推進担当者会議  
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議  
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議  
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進  
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議  
『所報』の発行、『センター通信』等の広報活動の計画、推進

## 指導主事研修(年4回)

- 指導主事の役割についての共通理解や資質・能力の向上を図る。

## 所 員 一 覧

平成30年4月1日現在

所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名
総務室	担当部長・所長	小松 典子	カリキュラムセンター	室長	鈴木 克彦	特別支援教育センター	室長	宮川 淳子
	室長	渡辺 英一		担当課長	辰口 直美		指導主事	藤田 みどり
	課長補佐	野口 聡		課長補佐	本多 和子		"	中村 めぐみ
	主任	佐藤 晃		指導主事	伊藤 悦子		"	滝口 久奈
	"	福原 佑子		"	鶴木 朋和		"	近藤 春樹
	事務職員	渋谷 昌広		"	宮嶋 俊哲		"	鹿島 理子★
	"	大嶺 綾子		"	永田 賢		長期研究員	盛光 秀之★
	"	坂本 光弘		"	石井 芳宏		"	佐藤 舞
	主任			"	伊藤 由佳子			
				"	岩崎 知美			
情報・視聴覚センター	室長	栃木 達也	"	中野 正明	教育相談センター	室長	中村 隆英	
	課長補佐	関口 大紀	"	越 月 有里		指導主事	板橋 美由紀	
	事務職員	野村 晋	"	望月 隆		"	松田 典英★	
	指導主事	椎名 美由紀	"	伊藤 敏明		"	中島 智美★	
	"	和田 俊雄	"	高橋 徹		"	小清水 豊	
	"	百瀬 実	"	水之江 忠		カウンセラー研究員	古頭 一哉	
	"	草柳 譲治	"	米倉 雅実				
	"	福山 創	"	福岡 弘行				
	長期研究員		"	築部 めぐみ				
			"	鬼頭 洋司				
		"	半田 真規子					
		"	奈良 沙織					
		"	藤原 美千代					
		"	松浦 信明					
		"	鳥田 優子					

★＝塚越相談室勤務

## 専 門 員

氏 名	現 職	専 門 領 域
両角 達男	横浜国立大学教授	総合・特活
工藤 文三	大阪体育大学教授	教育課程
高木 展郎	横浜国立大学名誉教授	学習評価
森本 信也	横浜国立大学名誉教授	教育評価
物部 博文	横浜国立大学教授	健康教育
太田 洋	東京家政大学教授	英語教育
岡田 弘	東京聖栄大学教授	学級経営
原 克彦	目白大学教授	教育情報ネットワーク
菅原 雅枝	東京学芸大学国際教育センター准教授	国際教育
野中 陽一	横浜国立大学教授	教育の情報化
土谷 良巳	上越教育大学大学院名誉教授	教育心理学
霜田 浩信	群馬大学教授	特別支援教育
田中 信市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
芳川 玲子	東海大学教授	教育相談
小林 宏巳	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	カリキュラム開発

## 教育相談センター専門員

氏 名	現 職	専 門 領 域
古荘 純一	青山学院大学教授	小児精神医学
鶴養 美昭	日本女子大学名誉教授	臨床心理学

## 川崎市総合教育センター運営会議委員

氏 名	現 職	専門領域
吉澤 慶太	川崎市PTA連絡協議会会長	社会教育
小松 郁夫	流通経済大学教授	学校経営
有元 典文	横浜国立大学教授	学習環境
塚田 庸子	横浜国立大学客員教授	理科教育
赤堀 侃司	東京工業大学名誉教授	情報教育
池田 延行	国士舘大学教授	保健体育
笈田 有香里	神奈川県警 少年相談・保護センター川崎方面課長補佐	児童生徒指導
小川 信夫	玉川大学継続学習センター特任講師	人間理解
◎ 関戸 英紀	横浜国立大学教授	特別支援教育
瀧寺 繁夫	川崎市立小学校長会会長 川崎市立幸町小学校長	小学校教育
井上 総一郎	川崎市立中学校長会会長 川崎市立大師中学校長	中学校教育
○ 佐藤 栄寿	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立高津高等学校長	高校教育
上杉 忠司	川崎市立特別支援学校長会会長 川崎市立聾学校長	特別支援教育
嶋田 和明	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育

- ◎ 委員長  
○ 副委員長

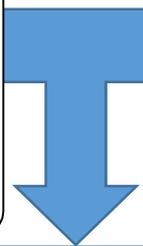
予 算

単位 千円

科 目	年 度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
		千円	千円	千円
総合教育センター費		1,058,488	1,088,413	986,851
教育調査研究費		23,826	30,519	23,605
教職員等研修費		20,544	21,554	19,227
教育相談費		73,394	68,961	67,667
適応教室運営費		72,351	74,880	79,020
教育情報ネットワーク事業費		338,287	331,659	330,356
視聴覚教育費		1,734	1,727	1,826
平和教育推進費		759	767	839
外国語指導助手配置事業費		378,184	336,624	307,546
海外帰国子女等関係費		53,963	54,026	54,283
理科支援員等配置事業		17,241	17,367	17,033
カリキュラムセンター事業費		462	487	493
総合教育センター運営管理費		67,955	138,694	72,736
教育会館運営管理費		9,788	11,148	11,240
その他経費（教職員等研修費へ統合）		-	-	980
総合教育センター費外		1,349,900	1,504,814	1,499,265
学校教育活動支援事業費		632	618	644
児童生徒・指導相談業務費		99,259	97,554	97,615
教育課程・学習指導に関する事務		27,667	26,973	26,337
情報化教育推進事業費		1,216,851	1,373,882	1,373,290
特別支援教育推進事業費		4,168	4,180	
人権教育推進事業費		464	635	500
子どもの権利学習等推進事業費		859	972	879

# 川崎市総合教育センター 平成30年度研究体系図

教育基本法 学校教育法  
中央教育審議会 答申  
小・中・特別支援学校新学習指導要領  
高等学校新学習指導要領  
「育成を目指す資質・能力」の明確化



かわさき教育プラン  
基本理念  
夢や希望を抱いて  
生きがいのある人生を送るための礎を築く  
基本目標キーワード  
「自主・自立」「共生・協働」

## 川崎市総合教育センターの研究

### 実践研究

平成30年度 実践研究主題  
**未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成**

- 各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究
- 各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究
- ◎長期研究員と研究員による研究（6）
  - 道徳：「考え、議論する道徳」を目指した授業と評価の研究
  - 外国語教育：中学校英語への円滑な接続をめざした文字指導の工夫
  - 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導：数量関係を正しく捉えるための問題把握の工夫
  - 主体的・対話的で深い学び：「深い学び」の視点からの授業改善に関する考察
  - 情報教育：小・中学校におけるプログラミング教育の研究
  - 特別支援教育：個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして
- ◎指導主事と研究員による研究（5）
  - 音楽：音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立ての研究
  - 体育・保健体育：資質・能力を育む保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の学習
  - 健康教育：「しなやかな心」を育む健康教育
  - 高校教育：統合的な言語活動を通じたコミュニケーション能力の育成
  - 学校教育相談：児童生徒同士のつながりを育む教育相談的な関わり
- ◎カウンセラー研究員による研究：教育相談を生かした生徒指導の在り方
- 市内学校との共同研究

### 共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎指定都市教育研究所連盟
- ◎神奈川県教育研究所連盟
  - 研究大会での研究報告
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

### 施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

### 調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
  - カリキュラムセンター
    - ・教員の資質・能力の育成に資する  
研修の見直し
  - 情報・視聴覚センター
    - ・情報活用能力育成のための  
モデルカリキュラムの作成に係る研究
  - 教育相談センター
    - ・児童生徒どうしのつながりをはぐくむ  
教育相談的なかわり
  - 特別支援教育センター
    - ・特別支援教育体制充実事業調査基礎研究

# 1 調査研究

## 1 総合教育センターにおける研究推進の基本的な考え方

総合教育センターでは設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っている。

現在の総合教育センターは、「研究・研修」の業務と、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担っている。指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握している。

そこで、研究においては、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえたうえでの各教科等に係る指導方法の改善や教員の授業力の向上等を目指す実践研究の推進を中心に据えて取り組んでいる。(別紙「研究体系図」参照)

### ◇実践研究

#### ■各教科等に係る指導内容、指導方法等の充実・改善を目的とした研究

#### ■各教科等の教育指導のための教材・資料等の作成・開発を目的とした研究

##### ○長期研究員と研究員による研究会議

道徳、外国語教育、習熟の程度に応じたきめ細やかな指導、主体的・対話的で深い学び、情報教育、特別支援教育

##### ○指導主事と研究員による研究会議

音楽、体育・保健体育、健康教育、高校教育、学校教育相談、

##### ○カウンセラー研究員による研究

#### ■市内学校との共同研究

### ◇調査・基礎研究

#### ■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

##### ○指導主事研究 各センターの課題に応じた研究

### ◇施策研究

#### ■教育施策等に係る研究

##### ○習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究

##### ○全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究

### ◇共同研究

#### ■各研究所等との共同研究

##### ○指定都市教育研究所連盟

##### ○神奈川県教育研究所連盟

・研究大会での研究報告

##### ○関東地区教育研究所連盟

##### ○全国教育研究所連盟

##### ○都道府県指定都市教育センター所長協議会

## ◇実践研究

### 長期研究員・研究員による研究会議

「考え、議論する道徳」をめざした授業と評価の研究

(道徳研究会議)

本研究では「考え、議論する道徳」の考え方、授業展開、評価について取り組んだ。「考え、議論する道徳」の考え方をもとにした授業展開では問題解決的な学習に取り組んだ。共通の問題意識を設定する際に、道徳的諸価値の想起や意識付けをした上で、教材の主人公について疑問に思ったことを発問することで、共通の問題意識の話し合いが深まりのあるものになることが分かった。教材分析から、児童生徒に考えさせたいことを明確にすることで、本時の評価の視点が立てやすくなった。児童生徒の学習状況から、突出しているところや進歩しているところに着目して一定期間を経た評価に表すことができた。

<スタッフ> 奈良 沙織 (長期研究員)

西岡 有紀 (研究員) 工藤 晶平 (研究員) 佐藤 登志子 (研究員)

松村 繁文 (研究員)

中学校英語への円滑な接続をめざした文字指導の工夫  
～音韻認識能力を高める活動を通して～

(外国語教育研究会議)

本研究では、新学習指導要領に新たに示された外国語の文字指導について、先行研究で文字認識に重要とされている音韻認識能力を高める活動を授業に計画的に取り入れ、検証した。中学年では、音韻認識能力を高める活動に入るために必要とされるアルファベットの形と読み方の学習を短時間、継続的に行った。児童が楽しく文字に慣れ親しみながら形と読み方を定着していく様子が見られた。高学年では、文字指導の時間を主に短時間学習に位置付け、音素体操を含め、音韻認識能力を高める活動を段階的、継続的に行った。また、通常的时间において単元と関連させた音韻認識能力を高める活動に取り組んだ。児童は学習を重ねることで、単語を聞いたとき、どの英語の音で始まっているのか捉えられるようになり、さらに音から文字につなげていく様子が見られた。こうした取組が中学校英語における発音と綴りを関連付けた学びへとつながると判断することができた。

<スタッフ> 藤原 実千代 (長期研究員)

村田 暁 (研究員) 石川 萌 (研究員) 三井 勇樹 (研究員)

数量関係を正しく捉えるための問題把握の工夫  
～自ら図形化することで、見通しをもって取り組む児童生徒の育成～

(習熟の程度に応じたきめ細やかな指導研究会議)

本研究では、「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」を「数学的な態度の程度に応じた指導」と捉え、問題文に内在する数量関係を正しく捉えるために自ら図形化し、立式までの見通しをもつことのできる児童生徒の育成をめざした。数学的な態度の程度に着目し、児童生徒のつまずきやすい単元である割合の学習に関する単元において場面絵→簡単な図→数直線図という段階を踏んだ指導の工夫を講じることで、児童生徒が「1を決めて、その何倍か」に着目して図形化し、問題文に内在する数量関係を正しく捉えることができ立式までの見通しがもてるようになる姿が見られた。

<スタッフ> 松浦 信明 (長期研究員)

宗像 拓己 (研究員) 工藤 大輝 (研究員) 松本 崇 (研究員)

「深い学び」の視点からの授業改善に関する考察  
—学びの自覚を促し資質・能力の育成を図る—

(主體的・対話的で深い学び  
研究会議)

本研究では、「主體的・対話的で深い学び」の中でも特にイメージがつかみにくいとされる「深い学び」に着目し、具体的な授業実践のレベルで検討することを通して、その実現に向けてどのような手立てが有効かを検証した。「深い学び」の捉えを確認し、その実現に向けて「学びをつなぐ」(学びを既習や生活などと関連付ける)と「自覚を促す」(学ぶ意義や価値、自分自身の成長を実感できるよう促す)の2つを柱に手立てを整理した。小・中学校6教科等で検証授業を行ったところ、「学びをつなぐ」と「自覚を促す」の手立てが「深い学び」の実現に向けて有効であることが見えてきた。

<スタッフ> 嶋田 優子(長期研究員) 笹川 新之助(研究員) 鈴木 康弘(研究員)  
小平 拓巳(研究員) 名越 智子(研究員) 山城 祥二(研究員)

小・中学校におけるプログラミング教育の研究  
—プログラミング的思考を育む学習活動の工夫—

(情報教育研究会議)

本研究では、文部科学省が示したプログラミング教育の目的、本市の施策、現状から見える課題から、川崎市立学校におけるプログラミング教育の実践イメージを示すモデルとなる年間計画、授業案、教材・教具の準備等を具体的にまとめた。検証授業を実施し考察した結果、教科等の内容を指導する中でプログラミング的思考を育む学習活動を成立させるためには、教科等の見方・考え方を働かせながら学習課題を達成するための学習活動に取り組むことと、プログラミング的思考を働かせることを両立させる必要があることが分かり、その際に行うべき具体的な学習活動の工夫を見出すことができた。

<スタッフ> 福山 創(長期研究員)  
佐藤 謙(研究員) 藤沢 俊太(研究員) 上野 忠章(研究員)

個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして  
—自己選択・自己決定の視点から

(特別支援教育研究会議)

本研究では、自己理解に基づいた自己選択・自己決定ができる子どもの姿をめざし、自立活動の時間における指導について検討した。自己理解に課題があるとされる知的に遅れのない自閉症スペクトラムのある特別支援学級の児童を対象に、自立活動チェック表、社会性・行動チェックリスト、自立活動の流れ図を基に対象児の実態把握を行い、自己決定の力を育てるために必要な支援を行った。授業の流れと発問を構造化すること、本人に合った視覚的な支援を行うことで、自分の気持ちに基づいた振り返りや自己選択・自己決定した理由の説明が促されることが見えてきた。

<スタッフ> 佐藤 舞(長期研究員)  
中村 真樹(研究員) 金丸 幸生(研究員) 雨宮 薫(研究員)

## ◇カウンセラー研究員による研究

### 教育相談を生かした生徒指導の在り方 ～生徒指導担当に求められる力を探る～

本研究では、教育相談を生かした生徒指導を実践するにあたり生徒指導担当として求められる力を整理することで、職員への適切な連絡調整や指導助言、生徒や保護者との丁寧な関わり、関係機関との円滑な連携を進めるために必要な力を探った。各中学校の生徒指導担当へのインタビューの回答から、問題行動等の未然防止や生徒指導の実際において心掛けている効果的な取り組みをカテゴリー化していくと、求められる力とは、生徒や職員など全体を見渡しリードする力、一人ひとりを見つめ支えていく力であり、それを学校全体に広げるために、対話力や行動力を磨いていく必要があることが見えてきた。

<スタッフ> 古頭 一哉 (カウンセラー研究員)

## ◇指導主事・研究員による研究会議

### 音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な 指導の手立ての研究 —[共通事項]を要とした授業の展開—

(音楽科指導主事と研究員による研究)

本研究会議では、音楽科の目標を実現するためには、児童生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせ、より思いや意図をもって深い学びに向けて学習を進めていくことが重要だと考えた。特に音楽科の学習の支えとなる[共通事項]を知覚・感受することが「音楽的な見方・考え方」を働かせることに資すると考え、その適切な設定の仕方や、学習形態の工夫を行うなどの効果的な教師の指導の手立てを具体的な授業実践を通して検討することを目的に研究を行った。研究を進めた結果、特にワークシートや発問の工夫、[共通事項]の知覚・感受の場の設定は、「音楽的な見方・考え方」を働かせるための有効な手立てであることが明確となった。

<スタッフ> 伊藤 由佳子 (指導主事) 寺瀬 想 (研究員) 松本 彩子 (研究員)  
秋山 高宏 (研究員) 遠矢 亜友加 (研究員)

### 資質・能力の育成を目指した授業改善 —「主体的・対話的で深い学び」を通して—

(体育・保健体育科指導主事と研究員による研究)

本研究会議では、中学校保健体育科の学習において、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を通して、資質能力の三つの柱をどのように育成していくことができるのか、様々な視点から検証して明らかにしていくことが大切だと考えた。研究を進めた結果、ICT や資料を活用しながら生徒同士の学び合いを進めたところ、知識の習得や技能の向上が見られた。また、知識の習得により自分の考えを積極的に伝えることができるなど、伝える力の育成につながった。さらに対話を通して試行錯誤することで新たな考えを発見するなど、思考の深まりが見られ、学びが深まることが明らかになった。

<スタッフ> 中野 正明 (指導主事) 佐藤 拓也 (研究員) 白田 利江 (研究員)  
藤田 健祐 (研究員) 木村 亮一 (研究員) 岩村 知幸 (研究員)

児童生徒どうしのつながりを育む教育相談的なかわり  
～指導の振り返りを通して～

(教育相談指導主事と研究員による研究)

指導の中で教師は児童生徒の姿からどのようなことを感じ、自分の言動を選んでいるのか、それは教師と児童生徒との関係性、児童生徒どうしのつながりにどのように影響しているのか「振り返り」を通して明らかにしようと考えた。研究授業だけでなく、ビデオで撮影したり、T2の授業を利用したり、逐語録を作成したり、各研究員が工夫して振り返りを行ったが、どの方法でも、教師の何気ない姿に児童生徒は多くのことを感じおり、言葉はもちろん表情やしぐさなどで児童生徒は多くのことを発信している様子が見えてきて、その後の指導に生かすことができた。

<スタッフ> 中島 智美 (指導主事) 松田 典英 (指導主事) 近藤 睦子 (研究員)  
関根 智尋 (研究員) 中澤 英之 (研究員) 西田 恵実香 (研究員)

「しなやかな心」を育む健康教育  
～個別の保健指導につなげるために～

(健康教育指導主事と研究員による研究)

人間の精神的な回復力という意味で使われている「レジリエンス」を、児童生徒にわかりやすく伝えるため「しなやかな心」と捉え、困難な状況でもよい方向に物事を考えたり、つらい時等に自分の気持ちを伝えたりして解決方法を考えることができるような授業について検証した。見えない心の状態をボールの教材で視覚的に示し、身近な問題に対してしなやかに解決するためにはどうしたらよいかを話し合うグループワークを取り入れた。子どもたちは主体的に意見を伝え合い、課題解決に向けて意思決定をすることができた。授業後には悩みの相談による保健室の来室が見られ、個別の指導にもつながった。

<スタッフ> 築部 めぐみ (指導主事) 和久井 彩花 (研究員) 倉光 由香理 (研究員)  
黒子 彩子 (研究員) 檜垣 恵理 (研究員)

統合的な言語活動を通したコミュニケーション能力の育成

(高校教育指導主事、英語科指導主事と研究員による研究)

外国語科において、各学校の特色や生徒の実態に応じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)(発表)」「書くこと」の4技能(5領域)の統合的な言語活動を取り入れた授業実践を単元全体で行い、その効果を考察した。授業の中で実践的なコミュニケーションの場面を作り出すことで、生徒が使用する言語と使用場面を容易に結び付け、学習した語彙や文法、表現を実際にコミュニケーションの場面で活用することができるようになった。さらに、複数の領域を結び付けた実践的な言語活動を繰り返し行うことで、英語で発信すること(話すこと・書くこと)に対する苦手意識が全体的に改善された。

<スタッフ> 半田 真規子 (指導主事) 米倉 雅実 (指導主事) 鬼頭 洋司 (指導主事)  
平山 歩 (研究員) 倉持 裕子 (研究員) 高橋 直樹 (研究員)  
植村 利英子 (研究員) 石倉 知子 (研究員)

## ◇調査・基礎研究（指導主事研究）

情報活用能力育成のためのモデルカリキュラムの作成に係る研究  
～教育情報化推進モデル校の実践を通して～

（情報・視聴覚センター指導  
主事研究）

新学習指導要領の理念と先行研究を踏まえ、各教科等の学習活動の中で児童生徒の情報活用能力がより効果的に育まれるようにするために、「情報活用能力育成のためのモデルカリキュラム」の作成に係る研究を行った。情報活用能力の理解を全職員で進めることや、児童生徒による情報活用能力の自己評価（川崎市版情報活用能力チェックリスト2017）を実施することが、モデルカリキュラムの作成に有効であることがわかった。また、モデルカリキュラム作成を進めることで、各教科等の単元における情報活用能力育成のための学習場面が明確となり、効果的な情報活用能力の育成につながるが見えてきた。

<スタッフ> 和田 俊雄 椎名 美由紀 草柳 譲二 百瀬 実

## 2 研究報告

### （1）川崎市総合教育センター 研究報告会【別紙1】

平成30年度センター研究報告会は、平成31年1月30日（水）に当センター、ゆうゆう広場たかつ、高津市民館、教育会館を会場に開催した。この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものである。21年度より、学校からより参加しやすい研究報告会にするため午後3時からの開催としており、長期研究員、指導主事、指導主事と研究員による研究の10分科会と、横浜国立大学教職大学院派遣教諭による研究の1分科会で研究報告を行った。申込者、来賓合わせて1040名の方々に参加をいただき、各分科会で熱気あふれる研究報告会となった。また、指導助言者からは、それぞれの立場や専門的な視点からの指導助言をいただいた。

### （2）その他の研究発表【別紙2】

## 3 その他の研究事業

### ◇研究冊子等の発行

川崎市総合教育センター研究紀要 第32号（平成30年度版）  
平成30年度に調査研究した内容の掲載

## 【別紙1】 川崎市総合教育センター研究報告会

研究報告会報告内容

長期研究員による研究

研究会議名	研究主題	発表者	講師
道徳研究会議	「考え、議論する道徳」をめざした授業と評価の研究	◎奈良 沙織○西岡 有紀 ○工藤 晶平○佐藤登志子 ○松村 繁文	川崎市立小学校道徳教育研究会長 川崎市立南野川小学校長 野村 智 先生 川崎市立中学校教育研究会 道徳教育部会長 川崎市立菅中学校長 山川 俊英 先生
外国語教育研究会議	中学校英語への円滑な接続をめざした文字指導の工夫～音韻認識能力を高める活動を通して～	◎藤原実千代○村田 暁 ○石川 萌 ○三井 勇樹	青山学院大学 文学部 教授 アレン玉井 光江 先生
習熟の程度に応じたきめ細やかな指導研究会議	数量関係を正しく捉えるための問題把握の工夫 —自ら図形化することで、見通しをもって取り組む児童生徒の育成—	◎松浦 信明○宗像 拓己 ○工藤 大輝○松本 崇	岩手大学 教育学部 教授 山崎 浩二 先生
主体的・対話的で深い学び研究会議	「深い学び」の視点からの授業改善に関する考察 —学びの自覚を促し資質・能力の育成を図る—	◎畠田 優子○笹川新之助 ○鈴木 康弘○小平 拓巳 ○名越 智子○山城 祥二	横浜国立大学 名誉教授 森本 信也 先生
情報教育研究会議	小・中学校におけるプログラミング教育の研究 —プログラミング的思考を育む学習活動の工夫—	◎福山 創 ○佐藤 謙 ○藤沢 俊太○上野 忠章	横浜国立大学 教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻長 教授 野中 陽一 先生
特別支援教育研究会議	個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして —自己選択・自己決定の視点から—	◎佐藤 舞 ○中村 真樹 ○金丸 幸生○雨宮 薫	横浜国立大学 教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻 教授 渡部 匡隆 先生

指導主事研究

研究名	研究主題	発表者
情報・視聴覚センター調査・基礎研究	情報活用能力育成のためのモデルカリキュラム作成に係る研究 ～教育情報化推進モデル校の実践を通して～	指導主事 和田 俊雄

指導主事と研究員による研究

研究会議名	研究主題	発表者	講師
音楽科研究会議	音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立ての研究～「共通事項」を要とした授業の展開～	◎伊藤 由佳子○寺瀬 想 ○松本 彩子 ○秋山 高宏 ○遠矢 亜夕加	
健康教育研究会議	しなやかな心を育む健康教育～個別の保健指導につなげるために～	◎築部 めぐみ○和久井彩花 ○倉光 由香理○黒子 彩子 ○檜垣 恵理	横浜国立大学 教育学部 教授 物部 博文 先生
高校教育研究会議	統合的な言語活動を通じたコミュニケーション能力の育成	◎半田 真規子◎鬼頭 洋司 ○平山 歩 ○倉持 裕子 ○高橋 直樹 ○植村利英子 ○石倉 知子	

横浜国大 教職大学院派遣教諭による報告

研究名	研究主題	発表者	講師
横浜国立大学 教職大学院派遣教諭による研究	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の協働的な学び	平成 29 年度横浜国立大学教職大学院 派遣教諭 深田 淳一	横浜国立大学教職大学院 教授 石塚 等

## 【別紙2】 平成30年度 神奈川県教育研究所連盟 第65回 教育研究発表大会

- 1 主催 神奈川県教育研究所連盟、横浜市教育センター
- 2 日時 平成30年10月19日(金) 9:30~16:40
- 3 会場 横浜市西公会堂 講堂/横浜市教育委員会事務局 花咲研修室
- 4 大会テーマ 「生きる力」を育む神奈川の教育

### 5 日程及び内容

- 全体会 受付 9:30~10:00 開会行事 10:00~10:20  
 パネルディスカッション 10:30~11:50 閉会行事 11:50~12:00
- 分科会 研究発表① 13:45~14:25 研究発表② 14:30~15:10  
 研究発表③ 15:15~15:55 研究発表④ 16:00~16:40

#### ○パネルディスカッション概要

「社会に開かれた教育課程」の下でのカリキュラム・マネジメント

～未来社会を担う子どもたちの資質・能力を育むための学校・地域・社会の協働を考える～

◇パネリスト 特定非営利活動法人 まちと学校のみらい 竹原 和泉 代表

横浜鴨志田郵便局 戸塚 昌行 局長

横浜市立宮谷小学校 奈良輪 孝雄 校長

横浜市立軽井沢中学校 星野 久美子 校長

コーディネーター 横浜市教育センター 教育課程推進室 松原 雅俊 室長

◇新学習指導要領改訂のコンセプトと横浜市のカリキュラム・マネジメントの考え方

◇資質・能力を軸に教科等横断的な視点で子どもの学びをつなぐカリキュラム・マネジメント

◇教育課程レベル、学校経営レベルでカリキュラム・マネジメントを支える地域・社会との協働

◇学校教育の現状と課題を踏まえた制度を知り、地域・社会の力とアイデアで支える学校経営

### 6 参加人数

全体会	分科会 (331人)									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
279人	29人	44人	48人	27人	25人	18人	26人	18人	54人	42人

### 8 分科会 川崎市発表者

分科会 NO	発表テーマ	発表者
1	数量関係を正しく捉えるための問題把握の工夫 ー自ら図形化することで、見通しをもって取り組む児童生徒の育成ー	松浦 信明
2	「深い学び」の視点からの授業改善に関する考察 ～学びの自覚を促し資質・能力の育成を図る～	畷田 優子
3	中学校英語への円滑な接続をめざした文字指導の工夫 ～音韻認識能力を高める活動を通して～	藤原実千代
6	考え、議論する道徳を目指した授業と評価の研究	奈良 沙織
8	個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして ー自己選択・自己決定の視点からー	佐藤 舞
9	小・中学校におけるプログラミング教育の研究 ～プログラミング的思考を育む学習活動の工夫～	福山 創

## 2 教育関係教職員研修

### 1 必修研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
801	新規採用教員研修	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修                      (2) 情報教育、情報機器の活用法、情報モラル :指導主事(総合教育センター)                      (3) 児童・生徒指導、学級経営について :芹澤 成司(前総合教育センター所長)                      (4) 安全指導について 救急法の講義演習、心肺蘇生法 :日本赤十字社                      (5) 学習指導についての講義演習 :指導主事(総合教育センター)                      (6) 学習指導 理科指導における講義演習[小]教科別指導[中・高・特] :指導主事(総合教育センター)                      (7) 宿泊研修に関わるオリエンテーション :指導主事(総合教育センター)                      (8)～(15) 宿泊研修 :指導主事(総合教育センター)                      (16) 特別支援教育、キャリア在り方生き方教育、図書館利用について :指導主事(総合教育センター)                      (17) 教育相談について :指導主事(総合教育センター)                      (18)(19) 児童生徒指導、学級経営について :指導主事(各区教育担当)                      (20)～(22) 初任者授業研究 :指導主事等(総合教育センター)                      (23)～(26) [小]授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間のうち4回の授業参観と研究協議[中・高・特]示範授業参観 授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のうち1回の授業参観と研究協議 :指導主事(総合教育センター)                      (27) 人権に関する講義 :大野 恵美(人権・共生教育担当)                      (28) 研修のまとめ、講義 :指導主事(総合教育センター)</p>	新規採用教員	勤務校外研修年間28回 4/13～1/25	9,630
802	新規採用養護教員研修	<p>■ 養護教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 養護教員に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健学習、保健指導                      (2) 健康教育の授業研究に向けて指導案検討                      (3) 健康教育の実際、学校での授業研究                      (4) 小学校における保健室経営と健康教育の実際 :一戸かおる(京町小学校)                      (5) 中学校における保健室経営と健康教育の実際 :工藤晶子(柿生中学校)                      (6) 保健室経営案と学校保健計画の立案、養護教諭の活動と評価 :築部めぐみ(総合教育センター指導主事)</p>	新規採用養護教諭	7/9 8/27 9/28 10/2 10/29 12/11	48
803	新規採用学校栄養職員研修	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 本市の学校給食の概要と服務                      (2) 給食業務の進め方Ⅰ(先輩栄養職員の参観・演習、給食時間における指導等)                      (3) 食に関する指導Ⅰ(子どもとのかかわり、指導の実勢に向けての工夫)                      (4) 食に関する指導Ⅱ(指導案について、教材研究)                      (5) 食に関する指導Ⅲ(指導案について、教材研究)                      (6) 食に関する指導Ⅳ(授業の実際)</p>	新規採用学校栄養職員	4/6 4/16 6/20 8/20 9/11 12/11	60
804	2年目教員研修	<p>■ 授業づくり、学級経営、児童生徒指導の3つの視点で普段の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践することができる力を身に付ける。</p> <p>(1) ガイダンス・班別協議(1年目を振り返った成果と課題、授業研究会へ向けて、班で共有する課題の設定と授業づくり)                      (2) 班別授業研究(公開授業及び研究協議、新たな自己課題の設定)</p>	2年目教員(全校種)	8/22と1/28 2/5 のどちらか	647
805	3年目教員研修	<p>■ 学習指導に焦点を当てて日々の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践し続けることができる力を身に付ける。</p> <p>(1) ガイダンスと班別研修(2年目を終えた成果と課題、班で共有する課題の設定)                      (2) 班別授業研究(公開授業及び研究協議、ステージ2に向けた実践目標の設定)</p>	3年目(全校種)教職員	6/5 1/15	566
806	2校目異動者研修	<p>■ 新しい職場で求められる役割を考え、新たな視点での実践を通して中堅教員としての素地を培う。</p> <p>(1) 服務規律(講師:教職員人事課 担当課長)・研修ガイダンス・人権尊重教育研修(講師:人権・共生教育 担当課長)                      (2) 学校の中核的な役割を果たす教員としての素地を養う～今までの自分を振り返り、これからの自分を考えよう～                      (3) グループ協議:レポート内容の交流・新たな課題の設定・個人の課題の深化</p>	2校目異動者(全校種)教職員	6/4 7/23 12/25	581

807	中堅教諭等資質向上研修	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る。</p> <p>(1) 開講式・教職員服務規律研修：担当課長（教職員人事課）・研修ガイダンス・実践力を高める研修①：指導主事（総合教育センター）</p> <p>(2) 授業研究①：指導主事（総合教育センター）</p> <p>(3) 教育課題研修①：指導主事（教育改革推進担当、総合教育センター）</p> <p>(4) 課題研究①：指導主事（総合教育センター）</p> <p>教育課題研修②：担当課長（人権・共生教育担当）</p> <p>(5) 実践力を高める研修② 講師：白井達夫（横浜国立大学）</p> <p>(6) 児童生徒指導研修：指導主事（区教育担当）</p> <p>(7) 授業研究②：指導主事（総合教育センター）</p> <p>(8) 課題研究②・閉講式：指導主事（総合教育センター）</p> <p>(9) 総合教育センター希望研修・共催研修の受講（総合教育センター等）</p> <p>(10) (11) 異校種交流研修（各学校）</p>	満8年～満10年（全校種）	5/1 5/8 7/30 7/31 8/1 12/27	希望研修の受講5～12月の1日  異校種交流研修7～12月の1日	3,080
808	15年経験者研修	<p>■ 中堅教員としての企画力、運営力の向上を図り、校内におけるリーダー性を育成する。また、人権尊重についても研修を行う。</p> <p>(1) 服務規律研修・市職員（教職員人事課）、講話「人権尊重について」：大野恵美（総務部人権・共生教育担当課長）</p> <p>(2) 講演「今、ミドルリーダーに求められるものとは？」：白井達夫（横浜国立大学）</p> <p>グループワーク「各自の取組の充実に向けて」</p> <p>(3) 班別協議「各自の取組実践の成果と報告」</p>	全校種教職員	5/2 12/26		192
809	新任総括教諭研修	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る。</p> <p>(1) 新任総括教諭の位置づけ、これからの総括教諭に期待すること：滝口太志（教職員人事課担当課長）、児玉暢也（四谷小学校長）、安部賢一（西中原中学校長）</p> <p>(2) 総括教諭として実践したこと、企業派遣研修報告</p>	新任総括教諭	4/24 12/20		183
810	新任教頭研修	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1) 実務研修「非常勤講師、臨任の任用」「給食調理員雇上げ」「教職員・業務職員の人事評価」「計画配置パソコン研修」：市職員（庶務課、教職員人事課）</p> <p>(2) 実務研修「著作権・個人情報・セキュリティ、学校のICT機器、教育の情報化、校務用PCとAロッキー、ID管理システム、スマートアンケート」：市職員（総合教育センター）／実務研修「休暇制度等の概要」：市職員（教職員人事課）</p> <p>(3) 実務研修「安全衛生、公務災害、職場におけるメンタルヘルスケア」「勤務時間制度」：市職員（勤労課）／「帰国・外国人児童、生徒教育」：市職員（総合教育センター）／講演「新任教頭に期待する」：小松典子（総合教育センター所長）</p> <p>(4) 講演「管理職の心得」：渡邊壽久（元中学校長会長）／実務研修「教育予算」「教育活動サポート配置事業」「特別支援教育サポート事業」「財務事務」：市職員（教育委員会庶務課、指導課、学事課）</p> <p>(5) 講演「効果的コミュニケーションと会議運営」：坂巻美和子（社員教育研究室）</p> <p>(6) グループ討議「分散会による班別討議」：市立学校長</p>	全校種新任教頭	4/10 4/18 4/23 5/1 5/31 7/18		251
811	教頭研修	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1) メンタルヘルス：安藤敦子（給与厚生課） 講演「愛される職員をどう育てるか」：江間 薫（川崎市立学校教職員互助会会長）</p> <p>(2) 分散会一「法規演習」：市職員（教育委員会教職員人事課）</p> <p>(3) 分散会二「課題研修」：市立学校長（市立学校）</p> <p>(4) 講話「多文化共生教育を推進するために」：崔 江衣子（川崎市ふれあい館）大野恵美（人権・共生教育担当担当課長）、講演「本気で進める学校の働き方改革と副校長・教頭の役割」：妹尾昌俊（文部科学省学校業務改善アドバイザー）</p>	教頭副校長	6/12 8/6 11/27 1/8		689
812	新任校長研修	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1) 講話：総合教育センター所長 講演「学校経営と校長の役割」：丸山 衛（宮内小学校校長） 「職場におけるメンタルヘルスケアについて」：市職員（給与厚生課） 「人事評価について」：市職員（教職員人事課）</p> <p>(2) 実務研修「教職員の人事」他：市職員（教職員人事課）</p> <p>(3) 講話「学校事故の問題」：市職員学校法律相談担当弁護士（庶務課） 講演「人権オンブズパーソン制度について」：人権オンブズパーソン</p> <p>(4) 「安心・安全な学校を実現する情報管理と管理職としての著作権」：総合教育センター 情報・視聴覚センター 指導主事 班別討議：「学校運営の現状と課題」：市職員（学校教育部）</p>	新任校長	4/10 4/24 7/26		124

813	校長研修	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) 講演「地域に信頼される学校評価」 京都大学特任教授・国立教育政策研究所名誉所員 小松 郁夫</p> <p>(2) 講演「キザニアが考えるビジネスモデルとマーケティング戦略」 K C J G R O U P株式会社 キザニア東京営業部マネージャー 鈴木 正孝 講話「メンタルヘルス」 職員部給与厚生課精神保健相談員</p> <p>(3) 講演「外国につながる児童生徒の教育について」 東京学芸大学 教育学部 教授 齋藤 ひろみ 講話「人権尊重教育の推進について」 人権・共生教育担当担当課長</p>	全校種 校長	6/25 8/29 1/22	501
814	小学校夏季体育実技講習会	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 器械運動（マット運動）、ゲーム（ハンドボール、リングボール）、表現運動（表現遊び）、走の運動（かけっこリレー）：市立学校教諭 (2) 体づくり運動（多様な動きをつくる運動）、陸上運動（ハードル走系）、保健、ゲーム（ネット型ゲーム・ネット型）：市立学校教諭</p>	小学校 教諭・新 規採用 5年未 満教諭	7/26 7/27	1,110
815	中学校夏季体育実技研修会	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 体づくり運動、柔道、陸上競技、水泳：市立学校教諭 (2) 球技「ネット型」、ハンドボール、ダンス、ソフトボール：市立学校教諭</p>	中学校 保健体 育科教 諭	8/17 8/18	907
816	小学校新規採用教員水泳実技講習会	<p>■ 小学校教員の泳力向上と技術の習得及び指導力の向上を図る。</p> <p>(1) オリエンテーション、講義、リズム水泳、低学年の指導法（水慣れ、水遊び、水にもぐり、浮く）、高学年の指導法①（クロール、平泳ぎの泳法指導ポイント→続けて長く泳ぐために）、高学年の指導法②（長く泳ぐための課題をもった学習ゲーム、距離・競争・ストローク数）、3泳法泳力向上タイム（3泳法選択：クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）：市立学校教諭 (2) 講義、中学年の指導法①（いろいろな浮き方、伏し浮き、浮く進む感覚づくり、けのび）、中学年の指導法②（呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ→面かぶりクロール）、中学年の指導法③（呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ→かえる足泳ぎ）10分間泳法・クールダウン&amp;ヒーリングタイム：市立学校教諭</p>	採用5年 未満教 員	7/24 7/25	726
817	小学校音楽科実技研修	<p>■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 歌唱実技及び指導法：金子やちよ（前小学校音楽教育研究会会長） (2) 器楽実技及び指導法：リコーダー指導者・尾形 誠（音楽教育推進協議会講師） 鍵盤ハーモニカ指導者・吉森 祐也（音楽教育推進協議会講師） 打楽器指導者・大嶽實穂（パーカッションニスト）</p>	小学校 新規採 用5年未 満教諭	8/9	191
818	中学校数学科初任者教員指導力向上研修	<p>■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 中学校数学科の教師として：前田高幸（元校長） (2) 数学科の授業づくり：宮嶋俊哲（総合教育センター） (3) (4) 学習指導要領、学習評価の理解：下田照雄（元校長） (5) (6) 魅力ある授業づくり：地曳善敬（玉川中） (7) 教科別授業研究会：本村卓登（柿生中） (8) 3年目研修指導案検討：印出多希（橘中）</p>	中学校 数学科 初任者	7/24 7/25 12/27	50
819	中学校理科初任者教員指導力向上研修	<p>■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修や市内にある理科関連の施設での研修を実施し、早期に指導力の向上を図る。</p> <p>(1) 安全指導「爆発等を理解し、安全に実験する」：総合教育センター指導主事 臨地研修①：多摩川塾塾長 中本賢、石橋修一（藤崎小） (2) 実験観察研修①「粒子領域の観察・実験」 実験観察研修②「エネルギー領域の観察・実験」：総合教育センター指導主事 (3) 実験観察研修③「生命領域の観察・実験」：総合教育センター指導主事 実験観察研修④「地球領域の観察・実験」：総合教育センター指導主事 (4) 実験観察研修⑤「教科書の不思議」：福山昇宏（井田中初任研担当） 実験観察研修⑥「おもしろ科学実験」：市内C S T、中学校教育研究会理科部会 (5) 臨地研修②「川崎の最先端技術」講演：藤嶋 昭（東京理科大学名誉教授）、講義：落合剛（高度計測センター材料解析グループ 主任研究員）、見学：「光触媒ミュージアム」 (8) 臨地研修③④「おもしろ玉手箱」「地層観察」「天体観測」：かわさき宙と緑の科学館指導主事、職員</p>	中学校 初任者 理科	7/24 7/25 8/20 8/22 11/2 12/27	74
820	新任教務主任研修	<p>■ 学校教育全般の企画・運営をする教務主任の校務遂行に必要な力を高める。</p> <p>(1) 講話「新任教務主任への期待」：網屋直昭（南生田中学校校長） 演習「公簿類の取扱」：鶴木朋和（総合教育センター指導主事） (2) 演習「教育法規の運用と解釈」：落合隆（教育委員会教職員人事課） 講話と質疑応答「教務主任の実務」：西種子田健作（野川小） 新原和史（菟宿小） 蟻生寛郎（木月小） 阪田美穂子（西丸子小） 内山賢（子母口小） 小笠原利弘（南生田小） 高橋京子（南河原中） 山崎範雄（宮前平中） 石井由紀子（中野島中） (3) 「教育の情報化と情報活用能力」「校務支援システム」「学校HP及び情報モラル」 ：椎名美由紀・草柳譲治・和田俊雄（総合教育センター指導主事） (4) (5) グループ演習「学校組織マネジメント」 ：白井達夫（横浜国立大学）、前田博明（川崎市教育委員会教育委員）</p>	新任教 務主任	4/27 5/23 7/2 8/7	175

821	養護教員研修	<p>■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。</p> <p>(1)心肺蘇生法 : 木島浄文(日本赤十字社神奈川県支部)</p> <p>(2)心肺蘇生法 : 木島浄文(日本赤十字社神奈川県支部)</p> <p>(3)「子どものてんかんの理解と対応について」 : 後藤知英(神奈川県立子ども医療センター神経内科部長)</p>	養護教諭	5/22 5/30 8/29	442
822	学校プール安全衛生・蘇生法研修	<p>■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。</p> <p>(1)「学校プールの衛生管理について」 : 福嶋仁(学校薬剤師)</p> <p>「学校プール安全管理上の留意事項について」 : 中野正明(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2)心肺蘇生法 : 木島浄文(日本赤十字社神奈川県支部)</p>	全校種教職員	4/16 5/7	316
823	小学校外国語(英語)教育中核教員研修	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得させ、授業力及び英語を使つての指導力を高めるとともに、外国語教育推進のリーダーとして各校内の中心的役割を果たす教員を育成する。</p> <p>(1)オリエンテーション・英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(2)英語教育推進リーダーによる研修 : 講演 太田 洋(東京家政大学教授)</p> <p>(3)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(4)英語教育推進リーダーによる研修 : 英語演習 株式会社イオン講師</p> <p>(5)英語教育推進リーダーによる研修 : 英語演習 株式会社イオン講師</p> <p>(6)英語教育推進リーダーによる研修</p>	小学校外国語(英語)教育中核教員	1/4 4/20 7/23 7/24	676
824	中学校外国語(英語)教育指導力向上研修	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得させ、授業力及び英語を使つての指導力を高める。</p> <p>(1)オリエンテーション・英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(2)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(3)英語教育推進リーダーによる授業研究会</p> <p>(4)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(5)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(6)英語教育推進リーダーによる研修</p>	中学校英語科教員	2/19 5/21 6/15 6/26 7/25 7/25	160
825	高等学校外国語(英語)教育指導力向上研修	<p>■ これからの外国語(英語)教育に必要な知識や技能を習得させ、授業力及び英語を使つての指導力を高める。</p> <p>(1)オリエンテーション・英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(2)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(3)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(4)英語教育推進リーダーによる研修</p> <p>(5)英語教育推進リーダーによる研修</p>	高等学校英語科教員	3/6 5/31 6/25 8/6 8/6	24
826	小学校外国語強化教員(ERT)	<p>■ 小学校英語強化教員として各小学校の支援に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。</p> <p>(1)オリエンテーション・基礎研修</p> <p>(2)～(7)基礎研修、デジタル教材活用件数、推進リーダー研修</p> <p>(8)(9)講演、デジタル活用研修、推進リーダー研修、研修のまとめ</p> <p>(10)情報交換</p> <p>(11)学校支援報告</p>	小学校外国語強化教員(ERT)	4/9,10, 11,12,13 8/7 3/5	418
827	小学校外国語教育推進担当者(GET)	<p>■ 新学習指導要領の実施に向け、各校の外国語教育を推進するために必要な知識を身に付ける。</p> <p>(1)新学習指導要領についての研修・情報交換</p> <p>(2)新教材、研修ガイドブックについての研修・情報交換</p> <p>(3)長期研修員による実践報告・情報交換</p> <p>(4)ALTの活用についての研修</p>	小学校外国語教育推進担当者(GET)	4/24 7/9 10/16 3/1	444
828	市内中学校理科主任研修会	<p>■ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科学習指導の周知を図ること、及び、新学習指導要領を実施するために必要な理科室の経営等について研修し、理科の授業力向上を図る。また、サイエンス、回覧板を活用した校内での情報共有の方法を学ぶ。</p> <p>(1)「気体検知管の製造過程、反応原理から学ぶ～新型気体検知管の紹介も含めて～」 : 榊ガステック</p> <p>(2)「理科室の不要廃棄薬品、薬品管理簿等」「センター理科室の備品、消耗品の貸し出しについて」「SAI NS-We b「理科教育」の回覧板について」「放射線副読本について」「全国学力・学習状況調査結果について」「新学習指導要領について(移行措置、指導事例等)」 : カリキュラムセンター 永田 賢</p> <p>(3)「南極から学ぶ～南極観測夏隊に参加して～」 : 菅小学校 山口直子教諭</p>	市内全校種理科主任	1/23	143
829	小・中学校合同道徳教育研修	<p>■ 講演会、授業公開を実施し道徳教育や道徳の時間に対する理解を深め小・中学校の連携を深める。</p> <p>(1)第1回 「特別の教科 道徳」(小学校)に向けた授業づくり 「特別の教科 道徳」を見据えた中高の道徳の授業について</p> <p>(2)第2回 東住吉小学校</p> <p>(3)第3回 中原中学校</p>	小・中学校教員	7/26 9/19 11/22	899
830	キャリア在り方生き方教育・進路指導研修	<p>■ 児童・生徒一人一人が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度を身に付けるキャリア在り方生き方教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質向上を図る。</p> <p>第1回 ① 研修報告(進路指導研究協議全国大会)</p> <p>② 情報伝達 各校におけるキャリア在り方生き方教育の推進について 指導主事(教育改革推進担当)</p> <p>③ 情報交換(各学校における推進状況について)</p> <p>第2回 ① 実践報告 平成30年度キャリア在り方生き方教育推進協力校 小倉小学校 高津中学校</p> <p>② 講演 「教員としてのキャリア形成について」 芹澤 成司(玉川大学)</p>	全校種教職員	9/13 2/1	333

831	人権尊重教育推進担当者研修	<p>■ 人権尊重教育の動向を理解し、各校の取り組みから人権尊重教育推進の研修を深める。</p> <p>(1) 全体会 講話：市職員(人権・共生教育担当)：指導主事(総合教育センター) 分散会 各学校の人権尊重教育の重点と推進計画情報交換</p> <p>(2) 全体会 講話：市職員(こども未来局青少年支援室子どもの権利担当) 実践報告：西梶ヶ谷小学校教諭・長沢小学校教諭 講演：「自分も相手も大切に作るコミュニケーション～アンガーマネジメントをもとにした児童生徒支援～」：鈴木 真理(アンガーマネジメント研究会)</p> <p>(3) 人権尊重教育実践推進校 さくら小学校・桜本中学校 公開授業 参加</p> <p>(4) 全体会 講話：市職員(人権・共生教育担当) 分散会 各学校の人権尊重教育の実践報告と全体計画の情報交換</p>	全校種 教職員	5/11 7/13 11/28 12/5 2/21	668
832	教育相談宿泊研修	<p>■ 体験を通して教育相談的な見方や考え方を学び、教師としての人間性を高める。</p> <p>(1) 開講式・班別研修(セッション1. 2) (2) 班別研修(セッション3. 4)・閉講式</p>	全校種 教職員	8/9 8/10	220
833	特別支援学級等新担任者研修	<p>■ 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る。</p> <p>(1) 開講式「子どもと一緒に はじめの一步」：滝口久奈(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2) 「教育課程とサポートノート作成について」：中村めぐみ(総合教育センター指導主事)</p> <p>(3) 班別研修「特別支援学級の見方・学級経営について」(市立小・中学校)</p> <p>(4) (5) 「障害種別に応じた指導の在り方」：霜田浩信(群馬大学教授)</p> <p>(6) 「授業づくりと具体的な指導について」：上原淑枝(栗台小)</p> <p>(7) 授業研究会参加(市立小・中学校)</p> <p>(8) 「進路指導と保護者対応」：藤田みどり(総合教育センター指導主事)</p>	特別支 援学級 等の新 担任者	4/11 4/23 6/27 7/30 8/22 9月～ 1月 9/25	984
834	特別支援学級等新担任者2年目研修	<p>■ 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした研修</p> <p>(1) 開講式 班別研修レポート発表(市内小・中・特別支援学校)</p> <p>(2) 班別研修レポート発表(市内小・中・特別支援学校)</p> <p>(3) 授業研究会(市内小・中・特別支援学校)：指導主事(特別支援教育センター)</p>	特別支 援学級 等2年目 の担任	6/18 7/10 10/22 10/23	222
835	特別支援教育コーディネーター養成研修	<p>■ 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。</p> <p>①「コーディネーターの役割と発達障害の基礎知識」 講師：特別支援教育センター指導主事</p> <p>②「自閉症・ADHDの理解と対応」 講師：群馬大学教育学部教授 霜田 浩信 先生</p> <p>③「教育相談の基礎知識」 講師：早稲田大学教職大学院教授 高橋 あつ子 先生</p> <p>④「学びのユニバーサルデザイン(UDL)の視点を生かした授業作り」 講師：早稲田大学教職大学院 教授 高橋 あつ子 先生</p> <p>⑤「アセスメントの理解(主な発達検査、実態から)」 講師：通級指導教室巡回支援員 山内 まどか 先生</p> <p>⑥「ワークショップ形式で個別の指導計画作成」 講師：特別支援教育センター指導主事 通級指導教室センター機能担当</p>	小・中・ 高・特 初め の特別 支援教 育コー ディネ ーター	5/16 5/29 8/1 8/6	420
836	通級指導教室新任者等研修	<p>■ 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的な指導、関わり方についての研修</p> <p>(1) 「通級指導教室の指導について」：近藤春樹(総合教育センター指導主事)</p> <p>(2) 「情緒の指導」：御幸小・東住吉小(情緒関連) 通級指導教室担当</p> <p>(3) 「言語の指導」：御幸小・東住吉小(言語) 通級指導教室担当</p> <p>(4) 「中学校通級の指導」：玉川中(情緒) 通級指導教室担当</p> <p>(5) 「聴こえの指導」：聾学校 通級指導教室担当</p> <p>(6) 「事例に基づく協議及び指導助言」：御幸小・東住吉小(情緒関連、言語)、久本小(言語)、玉川中通級指導教室担当</p>	通級指 導教室 を初め て担任 する教 員等	4/7 4/20 5/1 5/16 5/31 9/5	152
837	児童支援コーディネーター研修	<p>■ 児童支援コーディネーターとして必要な知識や技術を習得する。</p> <p>(1) 特別支援教育センター・教育相談センターとの連携：指導主事</p> <p>(2) チーム支援のためのケース会議の実際：芳川玲子(総合教育センター専門員)</p> <p>(3) キルの子の理解と対応：指導主事</p> <p>(4) いじめの理解と対応：指導主事</p> <p>(5) 取り出し指導の意義と進め方：指導主事</p> <p>(6) 教員のための精神医学：山登敬之(東京えびすさまクリニック)</p>	児童支 援コー ディネ ーター	5/24 7/31 8/2 9/20 10/23 2/7	320
838	帰国・外国人児童生徒教育担当者研修	<p>■ 帰国・外国人児童生徒に対する受入および日本語指導の新たな体制づくりを推進ため、川崎市の帰国・外国人児童生徒の実態や受入の流れ、日本語指導の内容や方法について研修する。</p> <p>講演「特別的教育課程の実施をめぐって」 ：菅原雅枝(東京学芸大学 国際教育センター 准教授)</p> <p>連絡 新学習指導要領の実施と特別的教育かて編成・実施に向けて (日本語指導等協力者の派遣・特別的教育課程・実態調査について) ：指導主事(総合教育センター)</p>	小・中・ 特別支 援学校 帰国・外 国人児 童生徒 担当者	6/12	123
839	不登校対策	不登校の現状を理解し、不登校、長期欠席の未然防止、早期対応の支援策を学ぶ。	児童支 援コー ディネ ーター、 生徒指 導担当 等	6/26 1/24	320
840	特別支援学校採用新任者	特別支援学校の新任者として必要な基礎的事項の理解を深め日常の指導に生かす。	特別支 援学校 新任者	6/16 7/25 8/23 2/9	160

## 2 特設研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
1	研究の進め方	<p>■ 校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。</p> <p>(1)「はじめの一步を踏み出そう」            (2)「笑顔で学び合う研究協議に変えよう」            (3)「子どもの姿で研究の成果を語ろう」            小林宏己（早稲田大学教授）</p>	全校種 教職員	4/19 6/27 12/21	73
2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	<p>■新学習指導要領で実現が求められている「主体的・対話的で深い学び」の基本的な考えや実現のポイントを学ぶ研修です。            講師：上智大学 教授 奈須 正裕</p>	全校種 教職員	8/8	51
3	小学校段階におけるプログラミング教育	<p>■ 小学校で必修化されるプログラミング教育について実際の授業場面を考えながら学ぶ。</p>	全校種 教職員	8/20	27
4	いじめをうまない学級・学校づくり	<p>■いじめの実態、発生の背景等の理論と、具体的な対応法、予防法を学ぶ。            (1)いじめの理論 教育相談センター指導主事            (2)いじめへの具体的な対応 教育相談センター指導主事</p>	全校種 教職員	8/6 8/6	46
5	授業のバリアをやわらげる	<p>■読みが苦手な児童生徒が感じる困難さの背景について考え、授業の中でできる段階的な支援を実践例をもとに学ぶ。            (1)読みが困難な児童生徒の背景と支援（講義） ②教材紹介            井上賞子（松江市立意東小学校）</p>	全校種 教職員	7/26	44

## 3 ICT活用

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
101	オフィス初級	<p>■ Office2013から、ワード、エクセル、パワーポイントについての基本的な操作方法を習得し、教材づくりや各種集計業務、プレゼンテーション作成に関する基礎を研修。            「教員のICT活用指導力チェックリスト」A（教材準備）、C（児童生徒の活用）に自信がもてるようになる講座です。</p>	全校種 教職員	7/31	37
102	タブレットPC操作入門	<p>■ 小学校に10台、中学校に20台あるタブレットPCの基本的な使い方を学びます。この講座は「タブレットPCを操作したことがほとんどない」「タブレットPCと無線LANをつないだことがない」という方向向けの研修。            タブレットPCの操作を学ぶことを通して、「教員のICT活用指導力チェックリスト」A（教材準備）、C（児童生徒の活用）に自信がもてるようになる講座です。</p>	全校種 教職員	8/3	33
103	プログラミング教育	<p>■ 新学習指導要領では、各校種におけるプログラミング教育について、明記されています。実際に学校では、どのように行えばいいのか。実際に活用できる教材やコンピュータソフトの紹介などを通して、学校におけるプログラミング教育について体験していただく研修です。</p>	全校種 教職員	7/26	30
104	学校・研究会ホームページ	<p>■ 学校ホームページからの積極的な情報発信は、保護者や地域にとって日々の教育活動や学校のことを理解するための貴重な情報源になります。この講座は、ホームページビルダーを使ってホームページ更新をすることが目的の研修。            「センターテンプレート」を使用している学校もこの講座で更新のための研修を受けることが可能です。この研修を通して、「教員のICT活用指導力チェックリスト」E（校務での活用）に自信がもてるようになります。</p>	全校種 教職員	8/1	24
105	映像制作入門	<p>■ 映像の教育効果や活用について学ぶとともに、デジタル（ビデオ）カメラで撮影した動画や静止画をコンピュータで編集し、授業の中で活用できるようにするための研修。            「教員のICT活用指導力チェックリスト」A（教材準備）、C（児童生徒の活用）に自信がもてる講座です。</p>	全校種 教職員	7/30	20
106	小学校情報教育研究会との共催	<p>■ ICTや様々な思考ツールを活用しながら、情報活用能力を育成する授業について考える研修。            実践事例の紹介、実技研修などを通してICTの活用の仕方をも身につけることができます。            「教員のICTチェックリスト」A（教材準備）B（授業活用）C（児童生徒の活用）等に自信がもてるようになる講座です。</p>	全校種 教職員	7/24	88

4 授業力向上研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
201	国語科教育	<p>■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、実践発表、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)学びの主体を子どもにおいた授業づくり：中村和弘(東京学芸大学)</p> <p>(2)実践報告・演習 国語教室づくりに学ぶ：小学校常任委員会、伊藤銀河(京町中)</p> <p>(3)書写実技研修会・小学校常任委員会 (1)(2)(3)ともに共催研修</p>	全校種 教職員	7/26 7/30	237
202	社会科教育	<p>■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。</p> <p>(1)授業改善研修会：研究部会常任委員(中学校向け)</p> <p>(2)県内臨地研修会：研究会常任委員(小学校向け)</p> <p>(3)小学校授業づくり研修：研究会常任委員(小学校向け)</p> <p>(4)社会科ベーシック研修</p>	全校種 教職員	6/8 7/26 7/30 8/6	379
203	算数・数学科教育	<p>■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る。</p> <p>(1)算数・数学科の授業改善～小中高学校の授業実践を通して～ 佐藤 茂樹(宮崎小学校長)・福地 誠(田島中学校長)・増田 実(幸高等学校長)</p>	全校種 教職員	7/26 11/1	86
204	理科教育	<p>■ 新しい学習指導要領を踏まえ、講義や実験実習等を通して、授業力の向上を図る。</p> <p>(1)授業で理科を語り合おう～小・中学校合同授業研究～(小・中・センター共催研修) 授業会場：四谷小、玉川小、金程小</p> <p>(2)爆発等を理解し、安全に実験する：総合教育センター指導主事</p> <p>(3)粒子領域が好きになる：総合教育センター指導主事</p> <p>(4)エネルギー領域が好きになる：総合教育センター指導主事</p> <p>(5)生命領域が好きになる：総合教育センター指導主事</p> <p>(6)地球領域が好きになる：総合教育センター指導主事</p> <p>(7)おもしろ科学実験：市内CST、中学校理科部会観察実験推進委員会 総合教育センター指導主事 かわさき宙と緑の科学館職員</p> <p>(8)地層・植物観察研修(小・中・センター共催研修)：小学校理科教育研究会</p> <p>(9)天体観測研修(小・中・センター共催研修)：小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館指導主事・職員</p>	全校種 教職員	7/4 7/24 7/25 8/20 8/22 10/31 12/14	496
205	生活科教育	<p>■ 夢見ヶ崎動物公園での動物飼育の体験実習やスタッフの講演を通して、生命尊重の授業づくりを構想する。</p> <p>(1)動物園体験実習(1日目)～実習①餌の調理、寝床の準備等～：夢見ヶ崎動物園職員</p> <p>(2)動物園体験実習(1日目)～実習②餌の調理、寝床の準備等～：夢見ヶ崎動物園職員</p> <p>(3)動物園体験実習(2日目)～講義 野生動物の保護及び動物病院の実態、現状について～・石川真理子(夢見ヶ崎動物園)</p> <p>(4)動物園体験実習(2日目)まとめ～野生動物の現状や動物病院の実態から生命尊重教育について考える～：指導主事(総合教育センター)</p>	全校種 教職員	8/23 8/24	24
206	音楽科教育	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。</p> <p>(1)小学校音楽科共催研修「管楽器実技研修会」講師：音楽教育推進協議会(山下雅央・村上紀義)</p> <p>(2)小学校音楽科共催研修「器楽実技研修会」講師：音楽教育推進協議会(吉森祐也氏・林紘史・山下雅央)</p> <p>(3)ミュージアム川崎共催研修「音楽の学びを深める創作と音楽づくり研修」講師：マイケル・スペンサー</p> <p>(4)中学校音楽科共催研修「長唄研修会」講師：一般財団法人長唄協会</p>	(1)(2) 小教員 (3)は 小 中教員 (4)は 中教員	7/26・27 8/7 1/23	135
207	図画工作・美術科教育	<p>■ 図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手だてを研修する。</p> <p>(1)小学校図画工作科研修(図画工作科研究会共催研修) 6つの領域で実技研修を行う 講師：図画工作科常任委員</p> <p>(2)図画工作・美術科指導力向上のための研修(中学校美術科部会共催研修) 「シルクスクリーンで模様を作ろう」講師：野田 和洋(川崎総合科学高等学校)</p> <p>(3)図画工作・美術科指導力向上のための研修(中学校美術科部会共催研修) 「見る力、描く力を高めるスケッチの活用」講師：野田 和洋(川崎総合科学高等学校)</p>	全校種 教職員	7/26 7/27 8/6	189
208	体育・保健体育科教育	<p>■ 実技研修や講義を通して、体育・保健体育科教員の資質の向上を図る。</p> <p>(1)体育・保健体育(共催研修)：中野 正明(川崎市総合教育センター)</p> <p>(2)体育・保健体育(共催研修)：市内小学校教員</p> <p>(3)体育・保健体育(共催研修)：山崎朱音(静岡大学)</p> <p>(4)体育・保健体育(共催研修)：高井 明(元川中島中学校校長)指導主事(総合教育センター)、市内中学校教員</p> <p>(5)体育・保健体育(共催研修)：市内中学校教員</p>	全校種 教職員	5/31 6/27 9/18 10/31 11/28	264

209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	<p>■ 題材開発や教材開発のために、安全面に配慮した実技研修を行い、学習指導上必要な教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1) 中学校技術・家庭科(家庭分野)「タニタが考える健康づくり」：タニタヘルスリンク 麻生美保子</p> <p>(2) (3) 中学校技術・家庭科(家庭分野)「生活を豊かにする物の製作」(共催研修 中学校、高等学校、特別支援学校向け)：神谷夏子(蛇の目ミシン)</p>	全校種 教職員	8/16 8/17	132
210	技術・家庭科(技術分野)教育	<p>■ 題材開発や教材開発を視点とした研修を行い、教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1) 技能・技術研修1(共催研修)・「C エネルギー変換の技術」：大谷 忠(東京学芸大学)</p> <p>(2) 技能・技術研修2(共催研修)・「D 情報の技術」：大谷 忠(東京学芸大学)</p> <p>(3) 技能・技術研修3(共催研修)・川崎総合科学高等学校コース別：高等学校教員</p> <p>(4) 技能・技術研修4(共催研修)・工場見学(東京ガス横浜テクノステーション)</p>	全校種 教職員	8/16 8/17	168
211	小学校外国語教育	<p>■ 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、新しい英語教育に対応する研修を行い、指導力の向上を図る。</p> <p>(1) ALTとの協働的に授業を進めよう：インタラック講師</p> <p>(2) 英語力を高めて授業に生かそう：英会話イーオン講師</p> <p>(3) 英語を話す力を高めよう：英会話イーオン講師</p>	小学校 教職員	7/24 7/26 7/30 8/20	61
212	英語科教育	<p>■ 新しい英語教育に対応し、4技能を総合的に育成する指導を充実させるため研修を行い指導力の向上につなげる。</p> <p>(1) 川崎を素材にした授業づくりについて考える。(初任者対象)：民家園通訳ボランティア</p> <p>(2) CAN-DOリストを活用した授業づくり：九段中等教育学校 教諭 本多 敏幸</p> <p>(3) 教科書を用いた言語活動の在り方：玉川大学 准教授 工藤 洋路</p>	中・高 英語科 教員	8/7 8/20	79
213	道徳教育	<p>■ 夢見ヶ崎動物公園での動物飼育の体験実習やスタッフの講演を通して、生命尊重の授業づくりを構想する。</p> <p>(1) 動物園体験実習(1日目)～実習①餌の調理、寝床の準備等～：夢見ヶ崎動物園職員</p> <p>(2) 動物園体験実習(1日目)～実習②餌の調理、寝床の準備等～：夢見ヶ崎動物園職員</p> <p>(3) 動物園体験実習(2日目)～講演と授業づくり～：夢見ヶ崎動物園職員、センター指導主事</p> <p>(4) 動物園体験実習(2日目)～授業づくりとまとめ～：夢見ヶ崎動物園職員、センター指導主事</p>	全校種 教職員	7/24 8/23	24
214	特別活動	<p>■ 話し合い活動の指導のポイントと意欲を高める教材作りを実技演習を通して研修する。</p> <p>(1) 「学級会グッズの作成」講師：小学校特別活動常任委員会</p> <p>(2) 「学級会の充実に向けた話し合いの具体的な方策」講師：小学校特別活動常任委員会</p>	全校種 教職員	8/20	40
215	総合的な学習の時間	<p>■ 体験活動を学習活動に適切に位置付けて、単元構想する資質の向上を目指す。</p> <p>(1) (2) 福祉単元の充実 各区社会福祉協議会職員との情報交換や福祉疑似体験から、各校の福祉単元の課題を見出す。実践事例発表を参考に、自校の福祉単元の見直しを図る。長沼豊(学習院大学教授)</p> <p>(3) 多摩川の生物観察【がさがさ探検隊】多摩川での「がさがさ体験」で、水棲生物や河川植物の観察を行う。講師 中本 賢(多摩川塾) 石橋修一(藤崎小)</p>	全校種 教職員	7/24 7/26	34
216	高校教育	<p>■ 高等学校の現代的な諸課題の改善に向けて取り組んできた前年度長期研究員の実践報告及び新学習指導要領について考える。</p> <p>(1) 新しい時代に求められる資質・能力を育成するための指導方法についての報告</p> <p>(2) これからの高校教育～新学習指導要領より～</p>	高校教 職員	8/24	38

5 教育課題研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
301	子どもの心をひらく児童生徒指導	<p>■ 人権尊重を意識した教育活動を行うために、信頼関係を築くエクササイズを実技演習を通して学ぶ。</p> <p>(1)信頼関係を育てるエクササイズ「心をひらく川崎の表現活動」：児童文化研究会                      (2)信頼関係を育てる参加・体験型 TAP（玉川アドベンチャープログラム）：白山明秀（玉川大学）</p>	全校種教職員	8/9	40
302	初任者を対象とする川崎市内見学	<p>■ 川崎市の土地利用、公共施設等について実際に見学することで、本市の地理的環境とそこで営まれている産業の様子等の理解を図る。また、本市に対する理解を深めることにより、本市を愛する児童生徒を育てることにつなげる。初任者同士の交流を通して、川崎市の教職員としての一体感を深める。</p> <p>研修場所・川崎マリエン、川崎大師周辺、生田緑地等</p>	初任者研修対象の初任者	6/23	229
303	学級経営	<p>■ 学年組織の活性化に向け、学年経営に関わる講義・演習等を通して学年主任としての実践的な能力を高める。</p> <p>(1)学年経営：大内美智子（横浜国立大学教授）</p>	全校種教職員	8/8	16
304	食育	<p>■ 食育に関する講話や調理体験を通して、食育に対する意識を高め、資質の向上を図る。</p> <p>(1)食育講話：東京ガスインストラクター（東京ガス株式会社）                      (2)調理実習：東京ガスインストラクター（東京ガス株式会社）</p>	全校種教職員	7/24	17
305	自分を大切にす健康教育	<p>■ 子どもの健康課題である食生活や睡眠、喫煙、薬物乱用、性に関する問題等の実態を把握し、子どもの発達課題に応じた健康教育の在り方や進め方について講義や演習を通して学び健康課題解決に生かす。</p> <p>(1)学校における性に関する指導の進め方①                      (2)学校における性に関する指導の進め方②                      野津有司（筑波大学教授）</p>	全校種教職員	8/17	24
306	教育相談Ⅰ「キレル子の理解と対応」	<p>■ キレル状態とは何かを理解し、講義演習を通してその支援について学ぶ。</p> <p>(1)キレル子の理解と対応：教育相談センター指導主事</p>	全校種教職員	8/20	40
307	教育相談Ⅱ「保護者とパートナーになるために」	<p>■ 保護者との信頼関係を築くためのお話の聴き方や伝え方を実践的に学ぶ。</p> <p>(1)信頼関係を築く「お話の聴き方」講義：広井法子（上級教育カウンセラー）                      (2)信頼関係を築く「お話の聴き方」：広井法子（上級教育カウンセラー）</p>	全校種教職員	8/16 8/17	42
308	教育相談Ⅲ「ケース会議の実際」	<p>■ アセスメントに基づいた理解と対応の仕方、事例検討会の進め方を講義、演習を通して学ぶ。</p> <p>(1)事例検討会の在り方 芳川玲子（東海大学・センター専門員）                      (2)事例検討会の実際 芳川玲子（東海大学・センター専門員）</p>	全校種教職員	8/1 8/3	40
309	特別支援教育Ⅰ「コーディネーター専門」	<p>■ 特別支援教育について、より実践的で専門的な知識を身につける。</p> <p>(1)算数障害の理解と支援                      筑波大学 心理・発達教室相談室 山本 ゆう先生                      (2)身体的「不器用さのある」子どもの心理と支援                      筑波大学体育系 准教授 澤江幸則先生                      (3)高等学校の支援教育について考える「生徒指導と矯正教育①②」                      多摩少年院 法務教官 曾和 浩先生                      多摩少年院 教育調査官 石原 英樹先生                      LD発達相談センター 三島 節子先生</p>	全校種教職員	7/25 7/30	130
310	特別支援教育Ⅱ「通級指導教室専門」	<p>■ 通級指導教室における専門性の向上を図るために、具体的な指導法を学ぶ。</p> <p>(1)「KABC-Ⅱの読み取りと指導への活かし方について（基本コース）」                      近藤春樹（総合教育センター）、藤原敬子（宮前平小学校）                      (2)「ワーキングメモリに配慮した支援」：湯澤正通（広島大学教授）                      (3)「KABC-Ⅱの読み取りと指導への活かし方について（応用コース）」                      小林玄（立教大学女学院専任講師）</p>	通級指導教室担任等	8/2 8/10 8/23	403
311	特別支援教育Ⅲ「重度の障害をもつ子への支援」	<p>■ 重度心身障害児に対する基礎知識について理解を深め、実践的指導力の向上を図るため、肢体不自由特別支援学校での実践見学及び体験、レポート報告及び協議を行う。</p> <p>講師：土谷良巳（上越教育大学）</p>	特別支援学校、特別支援学級担任	6/7 6/25 8/6	60
312	特別支援教育Ⅳ「聞こえや見え方に課題のある子への支援」	<p>■ 通常の学級、特別支援学級、特別支援学校に在籍する難聴児・弱視児教育に対する基礎知識を学び、実践的指導力の向上を図る。</p> <p>(1)難聴教育概論 聞こえの体験（川崎市立聾学校 聴覚支援センター）                      (2)難聴の具体的な指導について（川崎市立聾学校 聴覚支援センター）                      (3)弱視教育概論：勝谷奈保子 石川 奈緒美（横浜市立盲特別支援学校）                      (4)横浜市立盲特別支援学校見学と事例検討会：勝谷奈保子 石川 奈緒美（横浜市立盲特別支援学校）</p>	全校種教職員	5/16 5/29 6/20 7/4	32
313	主権者教育	<p>■ 川崎市の主権者教育について、主権者教育の手引き「自分の意思が社会を創る」の活用と実践について学ぶ。</p> <p>(1)主権者教育概要説明 (2)グループに分かれて授業計画の作成</p>	全校種教職員	8/6	11

314	企業派遣	<p>■ 企業からビジネスモデルを学ぶことにより、社会的な視野を広げ、多角的な視点から学校経営に参画する意識を高める (1) キッサニア概要説明 (2) ワークショップ</p>	全校種教職員	7/26	13
315	学校図書館オンラインシステム研修	<p>■ 学校図書館に導入されている、学校図書館オンラインシステムの操作に関する研修。</p>	全校種教職員	8/16	3
316	学級新聞づくり	<p>■ 学級内のできごとや調査等を、文字として表現することで児童の自主的、実践的な活動の充実を目指すために教員自ら作品づくりに取り組みます。 (1) 新聞づくり講習会:市内中学校教員</p>	小学校教員	7/25	32

## 6 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
401	養護教諭キャリアアップ	<p>■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となってきている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。 (1) 今日からできること～LGBTを含めたすべての子どもたちのために～ MPO法人Ribit (2) 子どもたちの健康課題の解決に向けて 田中理恵 (健康教育課指導主事) 築部めぐみ (総合教育センター指導主事) (3) 平成29年度文部科学省健康教育指導者養成研修報告会 國中和美 (川崎市立下布田小学校 総括教諭・養護教諭) 鶴代友紀 (川崎市立塚越中学校 養護教諭)</p>	養護教諭	8/21 8/23	88
402	教諭・学校事務職員	<p>■ 実技演習や実践交流を通じて、学校事務職員としての専門性を高め、資質の向上を図る。 (1) 実務に役立つ演習 講師 坂巻美和子 (社員教育研究室)</p>	学校事務職員	8/3	18
403	栄養教諭・学校栄養職員	<p>■ 新学習指導要領 (家庭科) における食に関する指導についての研修により、指導力の向上を図る。 (1) 新学習指導要領における食に関する指導 講師: 杉山 久仁子 (横浜国立大学教育学部長)</p>	栄養教諭・学校栄養職員	8/21	40
404	学校給食調理員	<p>■ 講義や実技演習を通して、食と健康に関する幅広い知識や技能を身に付ける。 (1) 調理に関する講義と実習、環境に配慮した調理エコクッキング (東京ガス株式会社) (2) 調理に関する講義と実習、環境に配慮した調理エコクッキング (東京ガス株式会社)</p>	学校給食調理員	7/24	1
405	幼児教育と小学校教育の接続	<p>■ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続 (1) 子どもの学びと育ちをつなぐために～保育園、幼稚園、小学校それぞれのお取組から考える～ 幼児教育、小学校教育に求められていることを共有し、幼児小連携の在り方について事例発表、ワークショップを通して考える。 (2) 子どもの育ちをつなぐために～学びの芽生えから自覚的な学びへ～ 子どもの発達を踏まえ、一人一人の子どもの見方、関わり方のポイントを学ぶ。 講師 佐藤 康富 (鎌倉女子大学教授)</p>	全校種教職員	8/20	83

## 7 夜間利用研修 リクエスト研修

番号	コース名	内容	対象	実施日	参加延人数
501	夜間利用「担当者のための学校ホームページ」	<p>■ 学校 (研究会) ホームページを担当者として維持管理するための研修を行う。 (1) 学校 (研究会) ホームページを担当者として維持管理するための研修: 指導主事他 (総合教育センター)</p>	全校種教職員	7/3	1
502	夜間利用「音楽科教育」	<p>■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善への具体的な方策を実技・講義を通して研修し、授業力の向上を図る。 (1) 指揮法講習① 講師: 田久保裕一 (2) 指揮法講習② 講師: 田久保裕一</p>	全校種教職員	10/11 10/19	131
503	休日利用 授業力向上研修	<p>■ 授業事例から考える21世紀の学力とこれからの学び (1) ビデオ授業記録から協議を通して、これからの授業の在り方について考える : 佐藤学 (学習院大)</p>	全校種教職員	9/23	71
504	休日利用 英語力向上研修	<p>■ 英語教育改善プランに基づき、生徒の英語力向上につなげるため、教員の英語力向上のための研修を実施する。 (1)～(4) 英語力向上研修 : 株式会社イーオン講師 インタラクティブ講師 (5)～(8) 英語力向上研修 : 株式会社イーオン講師</p>	全校種教職員 小教員	7/21,28, 8/18,25 10/13,27, 11/10,24	128
	リクエスト研修	<p>■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。 (1) 要請に応じて随時設定: 指導主事 (総合教育センター)</p>	全校種教職員		2,363

### 3 **カリキュラムセンター事業**

平成 30 年度は、学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実と、第 2 次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」の理念の実現に向けた取組の推進を一層図るため、次の 5 つを事業目標として各事業を推進した。

#### ■事業目標

- 1 **学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実**
- 2 **習熟の程度に応じた指導など少人数指導の充実についての指導・支援の推進**
- 3 **教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進**
- 4 **教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備**
- 5 **各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進**

#### ■事業内容

##### 1 **学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実**

###### (1) **拡大要請訪問・要請訪問の実施**

○各学校の教育課程の編成や授業力向上に向けた校内研修や研究を支援するため、指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を実施するとともに各教科等の個々の要請に応じて指導主事を派遣した。

○拡大要請訪問の実施前後等に指導主事が訪問して校内研修を行うなど、単発的な訪問に終わらないような工夫を行った。授業改善を重点に置いた年間を通した学校支援の在り方として成果があった。

★拡大要請訪問 26 校

###### (2) **教育課程研究会の開催及び教育課程編成・学習指導に係る指導資料の作成**

○教育課程研究会では、授業研究や研究協議を通して、新学習指導要領の理念や内容について周知するとともに、望ましい学習指導の在り方等についての共通理解を図った。

★平成 28 年度 6,900 名 平成 29 年度 5,591 名 平成 30 年度 6,930 名

○小・中学校については、各学校が学習指導要領及び「かわさき教育プラン」の理念・目標の実現に向けた教育課程編成や授業づくりに活用できる資料として総則冊子を作成するとともに、研究(部)会との連携を図りながら各教科等の学習指導要領実践事例研究冊子を作成した。

○高等学校については、新学習指導要領の趣旨や内容及び喫緊の課題を研究協議会等の機会を活用し伝達するとともに、文部科学省の地方説明会を実施することにより、各学校への周知を図った。

○全校種教員に冊子「新学習指導要領に基づく授業改善の手立て」を配布した。ライフステージに応じた研修や拡大要請訪問で使用するほか、各学校の校内研修や日々の授業実践等での活用を促進した。

##### 2 **習熟の程度に応じた指導など少人数指導の充実についての指導・支援の推進**

###### (1) **全小中学校で実施する習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の支援**

○算数・数学の授業において、学習内容や児童生徒の実態に応じて、既に作成・配布した資料を活用して、単元の適切な箇所、習熟の程度に応じた少人数指導による授業を実施した。

○「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」担当者会を年 2 回実施し、学校における指導体制や指導方法等について情報交換を行うとともに、子どもがつまずきやすい単元や実施上の課題を明らかにした。

★担当者会 2 回開催（4 月、10 月）

## (2) 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の研究及び研究推進校の指導・支援

○研究会議において、子どものつまずきに応じた手立てを講じる方策を見出すとともに、その具体的な指導方法について研究を行い、全市に向けて研究提案を行った。

★研究報告会参加者数 113名

○研究協力校の実践をもとに、教員の指導力向上を目的とした指導用映像教材を作成した。

## 3 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進

### (1) 学校教育に関する調査・基礎研究

○研究主題「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」のもと、指導主事による施策研究（研修の見直し、習熟の程度に応じた指導、学力調査分析・活用）、調査・基礎研究を推進した。

○カリキュラムセンター指導主事研究として、川崎市教員育成指標に基づいた研修の在り方や、校内 OJT の在り方等について研究し、その成果を冊子「～学び合う先生、育ちゆく学校～教師力を高めるガイドブック」にまとめた。平成 31 年 4 月に小中高特別支援学校教員に配布した。

### (2) 各学校の教育実践に資する研究の推進

○各校種の研究(部)会等との連携を図り、長期研究員を配置した研究会議、指導主事と研究員による研究会議を中心に各教科等・教育課題に係る実践研究を推進し、授業改善等に向けた取組を支援した。

★長期研究員と研究員による研究 6 研究、指導主事と研究員による研究 5 研究、  
カウンセラー研究 1 研究、その他各室指導主事による指導主事研究を実施

★研究報告会全参加者数 1040 名

## 4 教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備

### (1) 必修・希望研修の充実

○教職員のライフステージに応じた必修研修、教職員のニーズに応じた希望研修を実施し、専門職としての資質や指導力の向上を図った。また、指導主事研究を通して、研修推進体制の整備・充実に向けて、より効果的・効率的な研修の在り方について情報を収集し、研修の見直しを図った。

○川崎市教員育成指標に基づき、各研修において育てたい資質・能力の重点を示し、受講者にとって何が身に付く研修なのかを明らかにし、より受講者のニーズに応じた研修を実施した。

○初任者研修を、3 年目までを見通した若年者研修として実施できるよう見直しを図った。また、10 年経験者研修を、よりミドルリーダーとしての資質向上に資する研修にするために、対象者や経験年数の見直しを図り、中堅教諭等資質向上研修に改編して実施した。

### (2) 指導改善研修の充実

○研修指導員の指導の下、受講者の研修課題に応じた適切な研修を実施した。

### (3) その他

○川崎市教員等育成協議会を 2 回実施し、養護教諭と栄養教諭（学校栄養職員）の育成指標及び着任時（ステージゼロ）の育成指標を策定した。

## 5 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

### (1) 学校経営に係る教育課題への対応

- 小・中学校の校長会と連携を図りながら川崎市学習状況調査を実施した。調査結果を分析し、報告書を作成するとともに報告会等を通じて各学校へ全市的な課題と授業改善の視点等を周知した。拡大要請訪問や要請訪問では、川崎市学習状況調査の設問や調査結果をもとに、指導主事が授業改善に向けての指導助言を行った。
- 全国学力・学習状況調査については、調査結果の経年比較を含む詳細な分析を心掛け、分析の結果を公表するとともに、10月に全国学力・学習状況調査に係る授業改善についての説明会を実施した。
- 各教科等・教育課題等に係る研究推進校事業や研究研修支援講師派遣事業等を実施し、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。
  - ★研究推進校 40校
  - ★研究研修支援講師派遣 23校
- NPO 教育活動総合サポートセンターと連携した「輝け☆明日の先生」養成事業を推進した。委託事業としての実施について見直しを図り、次年度以降は教育委員会直轄事業として運営する。
  - ★7日間（午前・午後） 13回の講義・研修を実施

### (2) 各教科等に係る教育実践への対応

- 各教科等に係る関連事業については、研究（部）会と連携を図りながら適切に実施した。
- 小・中・高等学校へのALT配置、小学校へのERT配置による外国語（英語）教育の支援を行った。また、英語教育改革に対応した小学校外国語（英語）教育中核教員研修、小学校中核英語教員（CET）研修、中・高等学校外国語（英語）教育指導力向上研修を円滑に実施し、教員の英語力及び指導力の向上を図った。
  - ★英語教育推進リーダー中央研修参加者数 小学校2名、中学校2名、高等学校1名
  - ★推進リーダーによる研修参加者 小学校外国語（英語）教育中核教員研修 各校1名、中学校外国語教育指導力向上研修 各校1名以上、高等学校外国語教育指導力向上研修 各校2名
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携して「現職教員CST養成プログラム」を実施し、中核理科指導教員の育成を図るとともに、理科希望研修、中学校理科初任者教員指導力向上研修、市立学校理科主任研修を実施し、授業力向上のための支援を行った。また、小学校の全校に理科支援員を配置し、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質向上を図った。
  - ★理科支援員配置校 小学校全113校
  - ★CST認定者数 今年度1名、全64名、CSTによる研修実施4回
- 「特別の教科 道徳」が円滑に実施されるよう、小中合同道徳教育研修や教育課程研究会等において、指導方法及び評価等についての研修を充実させた。
- 主権者教育、キャリア在り方生き方教育、学校進路対策、高校教育等各種教育課題に対する事業等を円滑に実施した。
- 教育課題研究、副読本かわさきの編集・発行、読書のまち・かわさき事業、子どもの音楽活動推進事業等の各種事業を円滑に実施した。

### (3) 人権尊重教育の推進

- 人権尊重教育担当者研修や人権移動教室、進路説明会の実施、「はたらくひとびと」や権利学習資料、指導事例集の作成等の人権尊重教育に係る事業を円滑に実施した。
  - ★小学1年生、5年生、中学1年生の全児童生徒及び関連する教員に配付
  - ★人権移動教室実施校数 小学校8校、中学校1校

#### (4) 海外帰国・外国人児童生徒に対する教育相談・支援の充実

○区教育担当と連携した海外帰国・外国人児童生徒に対する教育相談、並びに日本語指導等協力者派遣事業の充実を図った。

★海外帰国・外国人児童生徒教育相談数

平成 28 年度 220 名 平成 29 年度 176 名 平成 30 年度 174 名

★新規日本語指導等協力者派遣者数

平成 28 年度 215 名 平成 29 年度 182 名 平成 30 年度 192 名

○来所相談以外に、電話や電子メールによる相談を、市外、海外を含めて 169 件行った。帰国児童生徒関係の相談では、区教育担当と連携を図ることで、来所しなくても区で相談を行える形をとった。

○帰国児童生徒の中には、長期に海外に滞在していたために日本の生活習慣になじむのに苦労したり、日本語指導が必要となったりするケースもある。また、外国人児童生徒の中には、長期間保護者と離れて母国で過ごし、急に来日することになったケースや保護者の仕事の都合で来日したケースなどがあり、個々の事情は様々である。これまでは、川崎区に多く在籍していた外国人児童生徒が、その他の区でも増加している。国籍別でも中国・フィリピンが依然多いものの、その他のアジア諸国、特にインド周辺国が多くみられるようになった。また、中学生段階で渡日する子どもの数も、依然として増加している。

○児童生徒の指導には、日本語指導等協力者派遣事業や市内国際教室などが大きな役割を果たした。

日本語指導が必要な児童生徒のために、母語が理解できる日本語指導等協力者を派遣し、初期の日本語指導や適応のための補助的指導を実施した。平成 30 年度の派遣対象児童生徒数は、前年度からの継続者も含めて 296 名であった。登録している日本語指導等協力者は約 180 名で 13 ヶ国語に対応している。

○日本語教室において、日本語指導や教科指導を少人数で行った。通常の学級に在籍をしながら必要に応じて日本語指導等が受けられる国際教室は、日本語指導が必要な児童生徒が 5 名以上在籍する学校に設置することができるかとされている。平成 30 年度は 25 校に設置された。

## 6 その他

### (1) 各種指導事務の円滑な推進

○各種事業については、他室や指導課、区教育担当、教育改革推進担当等と連携して実施した。

○学籍・指導要録等公簿の作成に係る事務、夜間学級運営、教育実習、表彰事務、作品展の運営等の指導事務を円滑に実施した。夜間学級については、様々なニーズや個々の実情に応じる必要があり、これまで以上に学校と教育委員会の連携を図る必要がある。

★夜間学級入学・編入者 9 名

### (2) 各種事業の基盤としての所内業務等の円滑な推進

○研究・研修推進に係る担当者会の企画・運営などの所内及び室内業務を円滑に実施した。

### (3) 教育研究所連盟等に係る業務の円滑な推進

○県教育研究所連盟、関東地区教育研究所連盟、全国教育研究所連盟等との連携を図った。

○関東地区教育研究所連盟研究大会川崎大会を高津市民館を会場に 10 月 26 日に実施した。所内全室の協力を得て、円滑に運営することができた。

### (4) 横浜国立大学との連携事業

○アドバイザースタッフ派遣事業、連携講座の開催等の連携事業を推進した。

★アドバイザースタッフ派遣 平成 30 年度 8 件

## 4 情報・視聴覚センター事業

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」を推進するために市立学校のICTの環境整備、市立学校のコンピュータネットワーク（教育用・校務用・図書館用）の運用管理、教員の授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研究・研修を行う。

また、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の一層の推進を図る。

### ■重点目標

#### I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進

- 1 教育の情報化に向けた研究の推進
- 2 授業力向上に向けたICT活用指導力を高めるための研修の充実
- 3 市立学校のICT機器の計画的整備
- 4 川崎市教育情報ネットワーク（KEINS-NET）の活用促進
- 5 校務支援システム・学務システムの運用とSAINS-WEBの活用促進
- 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

#### II 視聴覚センター事業の推進

### ■事業内容（事業概要）

#### I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進

市の教育プランや総合計画を考慮し平成28年度末に作成された、「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づき、ICT機器整備や研修の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化による教員の子供とふれあう時間の確保に取り組む。「情報化推進協議会」を中心にPDCAサイクルを循環させることにより、本計画の継続的な見直しを図った。

#### 1 教育の情報化に向けた研究の推進

学校に整備されたICT機器の効果的な活用及び教員のICT活用指導力の向上、児童生徒の情報活用能力の育成を図るためのカリキュラムの開発に向けてセンター内で連携した研究を進めた。

##### (1) 情報教育研究会議（長期研究員と研究員による研究）

テーマ「小・中学校におけるプログラミング教育の研究

～プログラミング的思考を育む学習活動の工夫～」

新学習指導要領で取り組むことが明記された、小学校段階におけるプログラミング教育について、中学校との連携を踏まえつつ、小学校での学習活動がイメージしやすい実践事例と、モデルとなるカリキュラム作りに取り組んだ。新学習指導要領で事例が示されている、小学校5年の算数「図形」、小学校6年の理科「電気」だけでなく、「かわさき共生＊共育プログラム」での実践等を交えながら、学校現場で取り組みやすい事例やモデルとなるカリキュラムを示すことができた。

##### (2) 指導主事研究（指導主事による調査・基礎研究）

テーマ「情報活用能力育成のためのモデルカリキュラム作成に係る研究

～教育情報化推進モデル校の実践を通して～」

本研究では、新学習指導要領の理念と先行研究を踏まえ、各教科等の学習活動の中で児童生徒の情報活用能力がより効果的に育まれるようにするために、「情報活用能力育成のためのモデルカリキュラム」の作成に係る研究を行った。研究は、第44回全日本教育工学協議会全国大会（JAET 川崎大会）発表校である教育情報化推進モデル校5校（旭町小学校、宮前小学校、川崎高等学校附属中学校、川崎高等学校、田島支援学校）を中心として進めた。情報活用能力の理解を全職員で進めることや、児童生徒による情報活用能力の自己評価（川崎市版情報活用能力チェックリスト 2017）を実施することが、モデルカリキュラムの作成に有効であることがわかった。またモデルカリキュラム作成を進めることで、各教科等の単元における情報活用能力育成のための学習場面が明確となり、効果的な情報活用能力の育成につながるが見えてきた。

##### (3) 第44回全日本教育工学協議会全国大会（JAET 川崎大会）授業公開校との授業研究

宮前小学校、旭町小学校、川崎高等学校附属中学校、川崎高等学校、田島支援学校桜校の5校とともに「夢！希望！かわさき！未来社会を切り拓く資質・能力の育成」の大会テーマのもと研究を進めた。情報活用能力育成のための実践や、効果的なICTの活用の在り方、支援の必要な児童生徒に対するICT活用等について知見を得ることができた。

#### (4) 教育情報化推進モデル校との研究【高津中学校】

キャリア在り方生き方教育を通して育成を目指す生徒の姿に向けて、ICTの効果的な活用についての指導手法の検討や、高津中学校の研究主題であるICT活用による対話型授業等新たな学習形態の推進についての研究を行った。キャリア在り方生き方教育「自分をつくる」「みんな一緒にいきている」「私たちのまち川崎」の3つの視点を通して、授業改善を効果的に行うためのICT活用の指導手法や対話型授業の手立て等、キャリア在り方生き方教育とICT活用に関する新たな学習形態についての方向性が見えてきた。

#### (5) 情報教育に関する冊子の作成(「5分でわかる情報教育Q&A【第12版】」・指導主事研究)

今回の改定では新学習指導要領も考慮し、これまでの内容を見直すとともに、「情報教育特集号」とした。新学習指導要領で各教科等の学習の基盤となる資質・能力として示された情報活用能力の育成に向けて「情報教育」に関する項目を充実させるとともに、新しく「情報教育特集ページ」「小学校段階におけるプログラミング教育の具体的な参考資料ページ」等を掲載した。

## 2 授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研修の充実

指導力の向上や確かな学力の育成、校務の標準化・効率化を図るために、効果的なICT機器の活用研修を推進した。

### (1) 夏季研修

研修講座番号、研修講座名、実施回数(参加延べ人数/定員延べ人数)は次のとおり。

003 小学校段階におけるプログラミング教育	1回(27/30)	104 学校・研究会ホームページ更新	2回(24/72)
101 オフィス初級	2回(37/72)	105 映像制作入門	2回(20/72)
102 タブレットPC操作入門	2回(33/40)	106 小学校情報教育研究会との共催研修	2回(88/100)
103 プログラミング教育	1回(30/30)	315 学校図書館オンライン研修	2回(3/72)

研修後の受講者のアンケートでは、授業に役に立つ研修であったとの評価がとても多かった。本年度もICT活用スキルの向上はもちろん、タブレットを活用した授業例の紹介や、模擬授業、実際の授業計画など、ICTを活用して授業力向上をめざす内容に力をいれた。

### (2) 夜間利用研修

503 夜間利用「担当者のための学校ホームページ」1回(6名)

### (3) リクエスト研修

ICT活用や情報モラル教育等、学校や教員の要請に応じて行う研修を企画・実施し、教職員のスキルアップを図った。また情報セキュリティ関係のリクエストも増えた。

- ・ホームページ関連 5校
- ・プログラミング教育 2校
- ・情報モラル教育 19校
- ・情報セキュリティ関係 6校

### (4) 情報モラル教育に係わる研修の実施

各学校において情報モラル教育職員研修を年1回以上実施するよう依頼。

研修講師等については、センターから紹介するとともに、リクエスト(学校訪問)研修を通して教職員等への情報モラル教育研修の充実に取り組んだ。リクエスト研修の際には、情報モラル教育のカリキュラムの位置付けについても含めた研修として進めた。

## 3 市立学校のICT機器の計画的整備

新学習指導要領実施に向けた教育環境の充実に向け、川崎市における中・長期的、総合的な「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を基にした整備を進めた。

### (1) 校務用コンピュータ機器更新・増加分整備

教員増及び新校開校に伴い校務用コンピュータ111台を新規に配置した。また、校務支援システムの運用のため、昨年に引き続き各校に教員定数より一台多く共用分として校務用コンピュータを整備した。

### (2) 教育情報化推進モデル校タブレットPC等機器整備

タブレット型PCを効果的に活用して子どもたちが協働的な学びを展開する授業について検証するために、旭町小学校に40台のタブレット型PCとアクセスポイントを整備した。キーボードスキルの向上や、効果的な授業活用など今後の整備につながる検証結果が見られた。

(3) 田島支援学校小学部さくら分教室PC機器整備

さくら小学校内に田島支援学校の分教室が設置されるのにあたり必要なコンピュータの整備を行った。Windows タブレットとともに、支援の必要な子どもたちに有効な iPad、プリンタ等を整備した。

(4) 適応指導教室PC追加整備

市内6か所の適応指導教室(ゆうゆうひろば)での活動支援のため、各教室に5台ずつノート型PCを追加整備した。既設の無線LAN環境とも連携し、室内でのインターネット接続が可能となり、アプリケーションの活用の幅が広がった。

(5) 小杉小学校教育系・校務系PC等機器整備

小杉小学校の新設にあたりコンピュータの整備を行った。教育系PCについては、全教室無線LAN整備という環境をいかすため、130台のタブレット型PCを整備し子どもたちが日常的にICTを活用した授業を受けられるようにした。また指導者にも授業に使えるタブレット型PCを整備した。校務系PCについても市の方針に合わせて整備した。

(6) 幸高等学校コンピュータ機器入替

平成24年度導入のPCやサーバ等機器の更新を行うとともに、教科「情報」をはじめとする各教科等で利用するため、時代の変化に対応したタブレット端末の導入やソフトウェア、校内ネットワーク、システムの更新等を行った。

#### 4 川崎市教育情報ネットワーク(KEINS-NET)の活用促進

KEINS-NET、データベース、Webページの活用促進にむけて次のような業務を推進した。

(1) 教育情報データベースの充実

開所時から構築を進めてきた教育情報データベースについての件数は次のとおりである。23年度より、校務用コンピュータから本データベースを検索できるようにし、蓄積してきたデータベースの活用が進んだ。(平成31年3月末の件数)

① 教育関係資料データベースの一次情報	18,794件
② 教育関係資料データベースの二次情報	112,388件
③ アクセス件数	2,784件

(2) 学習指導案データベースの充実と活用促進

平成17年12月より、教員が必要とする学習指導案やワークシート、資料を学校のコンピュータから検索して、引き出せるように教科等の指導主事と連携して登録数を増やしてきた。また、校務用コンピュータからの検索、取り出しが可能になったことにより指導案データベースの活用が促進された。平成31年3月末の件数は次のとおりである。

① 登録指導案件数	4,167件
② 添付資料件数(登録指導案含む)	5,289件
③ アクセス件数	3,707件

(3) 学校、研究(部)会Webページ新規・更新・充実への支援

すべての市立学校のWebページをインターネットに公開し定期的に更新することを目指してきた。現在のWebページ立ち上げ状況は次のとおりである。

- ① 学校Webページ(インターネット公開178校、本年度更新178校 ※小杉小学校を含む)
- ② 研究(部)会Webページ(インターネット公開20、イントラネット公開30、計50)
- ③ 学校評価に関する資料をWebページで公開している学校数103校

学校Webページの定期的な更新を図るために、夏季希望研修以外にもWebページ作成・更新のためのリクエスト研修を学校向け3回、研究会向け2回、開講した。また、担当者が変わりWebページを維持しにくくなった学校には、川崎市独自のテンプレートを紹介し更新しやすくなるように支援した。今年度は、新規に川崎市独自のページテンプレートを使用した、学校ホームページテンプレート利用の個別研修(水曜日午後)を開催し、29校が参加しテンプレートを利用した見やす

い Web ページへ移行し、より更新しやすい環境づくりを図った。さらに保護者・地域からの信頼を深めるために、学校評価や教育方針等のコンテンツを全市立学校が掲載することを進めていく。

#### (4) 総合教育センターWeb ページの更新・充実

センターWeb ページには、イントラネット版とインターネット版、およびサインズ Web がある。それぞれのコンテンツやリンクが有効に使えるか確認しつつ、より使いやすくなるよう内容の整理をするとともにコンテンツの充実に努めた。また、本年度はインターネット版センターホームページを、誰でも見やすいウェブアクセシビリティの準拠を目指したりリニューアルし見栄え等を一新した。サインズ Web については、ページの構成を見直すとともに、教育委員会からの連絡をよりスムーズに伝えられるようにした。

#### (5) 川崎市図書館総合システムの有効活用

小学校、中学校・特別支援学校の図書担当者を対象とした研修や総括学校司書、学校司書向けの研修を行った。また、本年度は、図書館総合システムがより有効活用できるよう図書ユーザIDに係るシステム改善や無線LANによる蔵書点検への対応を実施した。

### 5 校務支援システム・学務システムの運用と<sup>サインズ ウェブ</sup>SAINS-WEBの活用促進

本格運用5年目となった校務支援システムの円滑な運用を図った。また、次期システム導入に向けて「導入検討委員会」や「総合評価審査委員会」を立ち上げ、新校務支援システム導入に向け業務調書や仕様書を作成した。そして、3月に総合評価一般競争入札を行い導入業者を決定した。

#### (1) 校務支援システム「年度更新作業」に関わる研修（計5回）

2月に5回（小学校対象3回、中学校対象2回）実施し、計74名が参加

#### (2) ヘルプデスクの継続設置

各学校からの校務支援システムの操作に関する問い合わせに対応するため、ヘルプデスク（電話相談窓口）を今年度も継続して設置した。（対応時間 平日9:00～18:30）

#### (3) 高等学校学務システム

全日制定時制全9校で学籍管理、成績管理に運用している。通知表については各学校の特色を出しているが、その他の書類については統一した帳票の形式とし、全9校で統一した仕様にすることで操作手順も同じになり業務の効率化を図っている。次年度予定されているシステム更新に向け、課題の洗い出しや担当者へのヒアリング等を行い、仕様の検討を行った。

### 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

個人情報等の流失防止の観点から教職員の情報モラルの徹底に取り組んだ。市立学校に整備されたコンピュータやネットワークのセキュリティ向上に努めた。

#### (1) 情報流失防止に関する活動

- ① 可搬媒体（USBメモリ等）の適切な扱いについて、個人情報の管理について徹底することを目的とし各学校に管理台帳作成を依頼し、各学校で実施した。
- ② 「可搬媒体（USBメモリー等）の扱いへの周知について」を発出し、個人情報や重要情報等の原則持ち出し禁止、業務用のUSBメモリの保管の徹底等について周知した。
- ③ 初任者研修、中堅教員等資質向上研修などの法定研修をはじめ、様々な研修や会議において個人情報保護の大切さと、個人情報の取扱いについて訴えてきた。また、全国で起きている個人情報流出事故を分析し、個人情報流出防止策の一環として注意喚起した。ゲーム機や携帯型音楽再生機を利用したインターネット接続、すれ違った人と自動的に通信する機能などについても研修を行った。

#### (2) コンピュータウィルス対策に関する活動

ウィルスを検知した学校数は概ね減少している。検知の多い月や、検知の傾向が同じ場合には、通知文を発行し、注意喚起を促した。ウィルス感染には、自宅で使用したUSB等の可搬媒体を使用したことで感染するものと、学習で利用するサイトの閲覧によるものが

多く見られた。検知された場合は、学校に状況を確認し対策方法を指導している。

今後も研修会や文書等で対策依頼や発生時の連絡方法等について徹底を図りたい。

- (3) ネットトラブルについての未然防止、啓発等のためリーフレットの作成・活用に協力。開催される川崎市立学校インターネット問題連絡協議会にて、学校、PTA、県警、有識者等と情報交換。

※「川崎市版 保護者向けインターネットガイド 2017」（平成 30 年 12 月に小 1～高 3 保護者・教職員へ配付）

- (4) 川崎市立学校インターネット問題相談窓口の相談件数及び内容

①インターネット問題 相談総件数 27 件

(内容別件数)

- ・投稿等削除要望 13 件
- ・ネット依存相談 7 件
- ・ネット監視依頼 5 件
- ・課金請求対応 1 件
- ・グループ間トラブル 1 件
- ・その他

②インターネット監視

(ネットトラブル発見時は、学校への連絡、プロバイダへの削除依頼をするなどして対応)

- (5) 「5分でわかる情報教育Q&A」（第 12 版）作成に関する活動

一昨年度より「情報教育Q&A」と改名して発行し、項目を整理するとともに、内容についても新学習指導要領に関する新しい情報に基づいた「情報教育特集」を加えた。また、参考資料についても情報モラル教育や学習活動に関する資料について最新のものとした。

- (6) 「川崎市立学校における情報モラル教育の視点」が「いじめ防止基本方針（平成 30 年 3 月 改定）」に掲載された。川崎市立学校における情報モラル教育について、指導課等との情報交換を行い、情報モラル教育に対するさらなる他課との連携推進を行った。

- (7) 個人情報の扱いに関して、USBメモリの適切な運用の周知に努めたが、個人情報の適切な管理ができていない学校があり、情報紛失事故が起きてしまった。対応として、関係部署と協議を進め個人情報や重要情報等の原則持ち出し禁止、業務用のUSBメモリの保管の徹底等について、学校にとってより理解しやすい適切な運用の再通知を行った。

## II 視聴覚センター事業の推進

市内各区の視聴覚ライブラリーと連携した視聴覚センター事業を推進した。

視聴覚センター機能として、市民団体や学校の教育及び学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業を一層推進し、36 回を迎えた「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

- (1) 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材機材の整備、貸出

教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを週 2 回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

今後の課題はこれまでに貸出している機器類の補修である。

※平成 30 年度視聴覚教材の貸出状況（センター→ライブラリー）

教 材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
16mm フィルム 本数	4	0	5	14	3	0	1	1	24	0	0	0	52
ビデオ 本数	5	1	5	33	8	0	1	4	6	0	0	0	63
その他 本数	14	79	25	90	17	7	11	18	62	18	13	13	367
計 本数	23	80	35	137	28	7	13	23	92	18	13	13	482

- (2) 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入

平和教育映像教材等連絡調整会議を 11 月 28 日に開催を経て、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定し、14 作品を購入した。

- (3) 第 36 回わが町かわさき映像創作展の開催

わが町かわさき映像創作展は 36 回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑

な推進を図った。

○応募期間 平成30年10月9日(火)～平成31年1月10日(木)

○応募総数 17点 (一般応募作品11点・小中学校各研究会推薦作品計6点)

○審査日 平成31年1月25日(金)

○審査員 7名

○表彰  
・グランプリ 1点(賞状・トロフィー) ・金賞 1点(賞状・楯)  
・銀賞 2点(賞状・楯) ・優秀賞 4点(賞状・楯)  
・奨励賞 4点(賞状・メダル)

○表彰式・作品上映会 平成31年2月23日(土)

○入賞作品

グランプリ

「復活 川崎の酒」

高津高等学校 視聴覚委員会 2年生

金賞

「秘密のヒーロー」

子母口小学校 映画クラブAチーム

銀賞

「Color, Future! いろいろって、未来」

野川中学校 映像制作部 2年生

「夢のストップウォッチ」

下布田小学校 ふだっこ放送局

優秀賞

「学校紹介ビデオ～Your Story～」

高津高等学校 視聴覚委員会 3年生

「生活習慣改善プロジェクト」

野川中学校 映像制作部 3年生A

「小さくなっちゃった!」

子母口小学校 映画クラブBチーム

「がっこうのせんせいのひみつ」

上丸子小学校 1年1組テレビ係

奨励賞

「にげないで」

幸高等学校 放送委員会 3年生

「地元を守る女躰神社」

幸高等学校 放送委員会 1年生

「かわさきマイスターズ」

川崎高等学校附属中学校 放送部

「橘スマイルTV」

橘小学校 6年3組

#### (4) 映像教材の開発と提供

昨年度に引続き、学校で活用してもらうための映像教材を委託開発した。今後も教材の充実を図っていく。

(今年度開発した映像教材)

① 「川崎市立学校における教育の情報化の取組

—第44回全日本教育工学研究協議会全国大会 川崎大会—

② かわさきマイスター

### 【情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営】

業務の円滑な運営のために学校や保守業者等との各種会議・委員会において、ネットワークや学校整備コンピュータの有効活用、校務支援・学務システムの導入・運用、情報セキュリティの徹底・啓発、視聴覚教材・機器貸出業務の運用等について連絡・調整を行った。

(1) 情報化推進協議会(校長会・学校)

(7) 平和教育映像教材等連絡調整会議

(2) 情報教育学校担当者会(全学校)

(8) わが町かわさき映像創作展連絡調整会議

(3) 情報収集活用委員会(研究(部)会)

(9) 校務支援システム定例会

(4) 保守定例会(コンピュータ機器保守業者)

(10) 高等学校学務システム担当者会

(5) ネットワーク定例会(ネットワーク保守業者)

(11) 次期校務支援システム導入検討委員会

(6) 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会

(12) 校務支援システム再構築総合評価審査委員会

## 5 特別支援教育センター事業

「かわさき教育プラン」には、共生社会の形成をめざし、一人一人の教育的ニーズに適切に対応する支援教育の推進が記載されている。特別支援教育センターは、「第2期川崎市特別支援教育推進計画」に基づき、各事業を通して川崎市の特別支援教育の振興を図っている。平成30年度の事業概要は次のとおりである。

### 1 「第2期川崎市特別支援教育推進計画」の計画的実施

#### (1) 多様な学びの場における支援の充実

- ・指導課支援教育係と連携し、新学習指導要領等の行政説明や情報交換、研修等を行った。

特別支援学級担当者会（4回）

特別支援学校担当者会（3回）

特別支援学校地域支援担当者会（3回）

通級指導教室センター的機能担当者会（7回）

特別支援学校センター的機能担当者会（7回）

#### (2) 個別の支援計画の作成と活用

- ・一人一人のニーズに応じた連携しやすい個別の指導計画の活用に向けて、周知・活用を進めた。

特別支援教育事務説明会（1回）

センター教育相談の学校コンサルテーション

センター就学相談 等

#### (3) 障害者差別解消法施行後の取組

- ・合理的配慮について、保護者・本人からの表明から具体的な実施までの事例収集や発信を行った。基礎的環境整備として、ユニバーサルデザインの視点を意識した授業作りを進めた。

特別支援教育コーディネーター連絡会議の開催（4回）

特別支援教育Iコーディネーター専門研修

リクエスト研修「ユニバーサルデザインの授業作り」等

#### (4) 特別支援教育問題研究会議における諸課題の研究協議(年4回)

- ・特別支援教育に関わる諸課題について、報告や意見交換を行い、今後の特別支援教育の推進に向けて協議を行った。

就学・入級・進学にかかわる諸課題、特別支援教育に関わる研修

医療的ケア支援事業にかかわる課題、通級指導教室の充実に向けて（センター的機能、書式）

中学校校内支援体制構築に向けた非常勤講師配置校の取組 等

## 2 特別な教育的ニーズのある子どもの相談や支援の充実

### (1) 教育相談の実施

#### ① 来所相談の概要

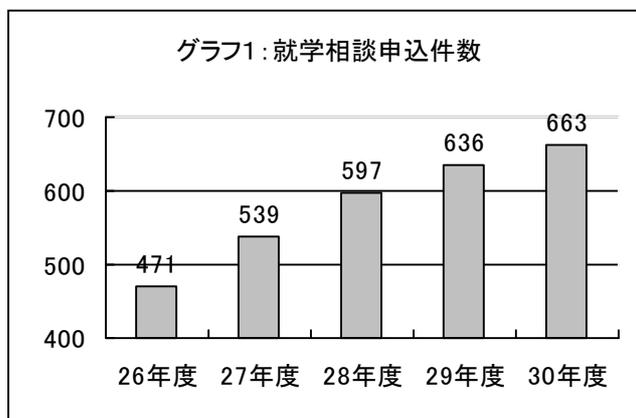
- ・来所相談件数と終結件数（表1）

年度により差があるものの、大きな変化はない。

表 1 : 来所相談件数	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
継続件数(終結)	862(425)	1,035(732)	776(484)	1,010(544)
新規件数(終結)	1,242(610)	1,250(777)	1,317(539)	1,275(783)
計	2,104(1,035)	2,285(1,509)	2,093(1,083)	2,285(1,327)

・ 就学相談件数の推移（グラフ 1）

初就学に関わる就学相談が増加し、今後とも増加が予想される。相談数の増加と合わせて、医療的ケアを必要とする児童や外国につながる児童の増加、保護者の希望の多様化等、相談が困難なケースが増加している。



・ 相談担当者全員による総面接回数（表 2）

総面接回数は少しずつ増加している。中

でも、就学相談件数の増加と連動して、就学・入級等の手続きに関わる相談数の増加が大きい。

表 2 : 面接回数	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
一般的な相談	5,741	5,241	4,897	5,562
就学・入級等手続きに関わる相談	2,383	2,770	3,369	3,077
総面接回数	8,124	8,011	8,266	8,639

・ 相談待ち日数

一般的な相談の申込から初回面接までの待ち日数は、溝口・塚越相談室で平均して約 47 日である。就学相談専門員が 1 名配置されたが、就学相談数の増加と面接回数の増加で相殺されている。

② 電話相談

- ・ 特別支援教育に関する電話相談教育相談センターの電話相談の項を参照。

**(2) 就学相談の実施**

① 就学説明会（初就学）の実施

- ・ 事前に南部・中央・西部・北部各地域療育センター、指導課等と連絡会議で連携した。
- ・ 4 か所の療育センター、一般の保護者向けに南部・北部、計 6 回、就学説明会を実施した。
- ・ 秋には年中児の保護者を対象にした説明会を各療育センター主催で実施した。

② 総合教育センター相談室における就学相談

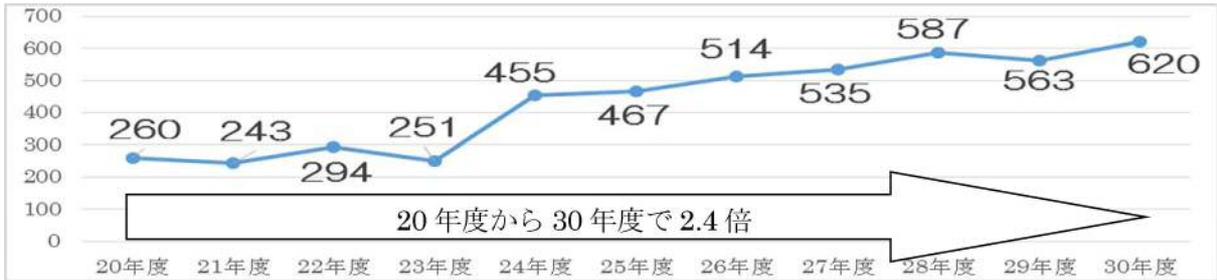
- ・ 就学説明会后、相談室（溝口相談室、塚越相談室）で個別の就学相談を実施した。

担当指導主事と心理臨床相談員が、それぞれ保護者との相談と子どもの行動観察を担当し、初回相談から就学に向けての合意形成まで、必要に応じて学校、関係機関等と連携しながら相談を継続した。30 年度溝口相談室に就学相談専門員が 1 名配置され、指導主事の業務の一部を担った。特別支援学校を希望するケース、合意形成が困難なケースについては、相談や行動観察を複数で対応する、療育センターや幼稚園、保育園を訪問して行動観察を行う、小学校での教育相談に同行するなど、より丁寧な相談を行った。

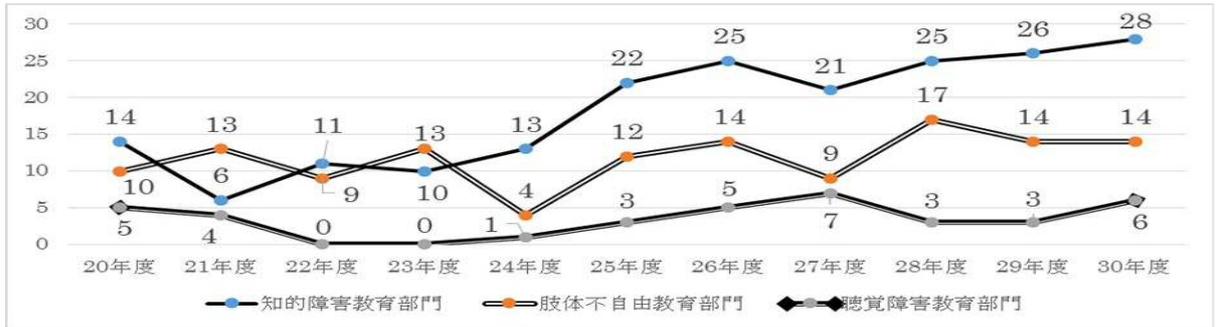
③ 川崎市教育支援会議の運営

- ・ 年間 3 回の教育支援会議、7 回の教育支援会議専門部会を開催した。

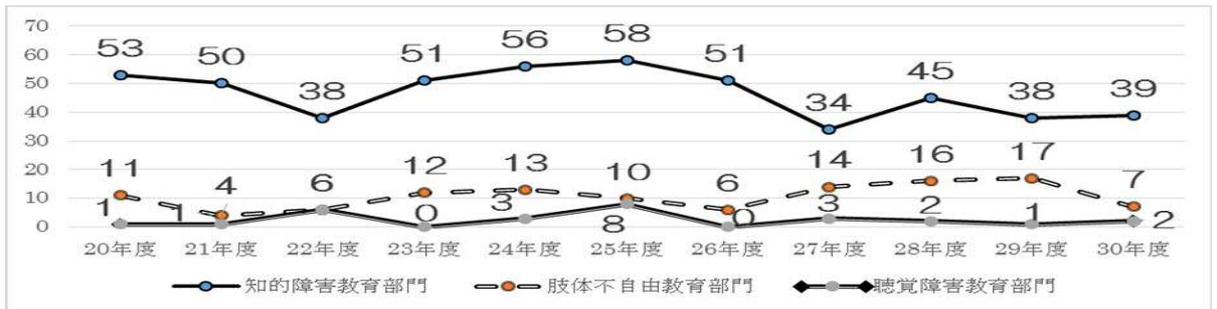
・川崎市教育支援会議審議件数及び進学内訳推移（グラフ2）



・特別支援学校小学部の就学の推移（グラフ3）



・特別支援学校（中学部）の就学の推移（グラフ4）



・小学校特別支援学級（グラフ5）



・中学校特別支援学級（グラフ6）



知的には平均域（IQ90 以上）であるが、対人面や行動面に困難さが見られる、知的に重度、肢体不自由があり、ADL 面で全面介助など、多様な状態の児童生徒が特別支援学級に入学している。

④中学校・特別支援学校進路相談連絡会

・特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について、県教育委員会と連携を図りな

がら、本市においても中学校特別支援学校進路連絡会と連携し、事前の進路指導や情報共有に努めた。

⑤通級指導教室対象児生徒入級審査会の運営

- ・通級指導教室入級審査会を開催し（11回）、審議件数476件（小学校420件、中学校56件）であった。
- ・31年2月1日現在、通級指導教室の在籍者数は以下の通りである。

小学校言語通級指導教室 555名、情緒関連通級指導教室 555名

中学校情緒関連通級指導教室 226名、難聴通級指導教室 34名

(3) 学校コンサルテーションの充実

- ・来所した児童生徒の相談に関わって、保護者の了解が得られたケースについては、学校コンサルテーションを行った。子どもへの理解を深め、より適切な支援・指導を行うために、特別支援教育コーディネーター、担任、養護教諭等と情報交換を行い、学校が個別の指導計画を作成・活用するための助言に努めた。年間件数は137件で、昨年度と比べて大きく増加した。

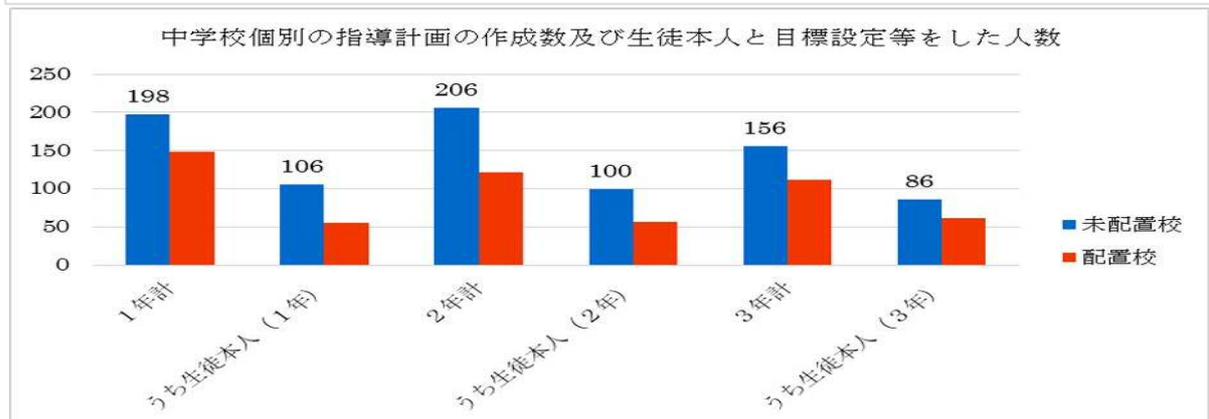
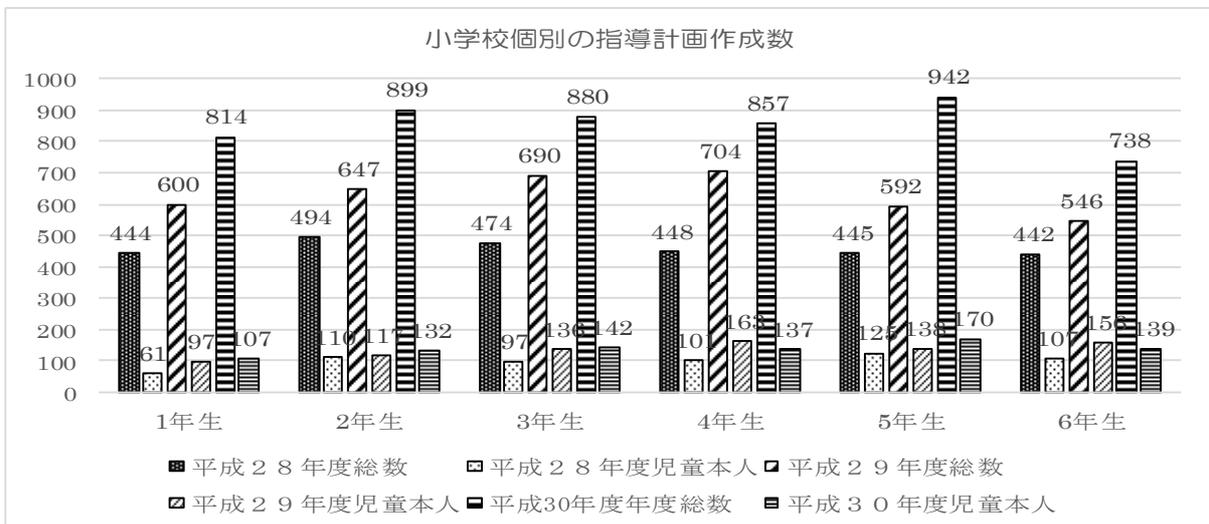
(4) ABC けんさ(Assessment of Basic Skills for Challenged Individuals 職業能力適性評価)

- ・学習課題の設定や進路指導に役立てることをねらいとして、特別支援学校高等部2年生の作業能力検査を実施している。田島支援学校23名、中央支援学校23名、計46名に実施した。

3 学校の特別支援教育に関する支援の充実

(1) 小・中・高等学校における特別支援教育の推進

①支援機関の情報共有、進学時の引継の充実のため、個別の指導計画の活用を重点に取り組んだ。



## (2) 支援人材の活用

- ・巡回相談員：臨床心理士等の心理専門家を、中学校の希望校 46 校（延べ 94 回）、小学校の希望校 32 校に派遣した。
- ・巡回指導員：特別支援教育に熟達した退職教員 2 名を、小学校新コーディネーター配置校への計画派遣を 83 回、小学校への要請派遣を 41 回実施した。
- ・高等学校支援員：要請のあった高等学校へ 33 回派遣した。
- ・特別支援学校地域支援部：A 手帳、1 種 1 級の身体障害者手帳、難聴の児童生徒が在籍する延べ 138 校の小中学校へ計画派遣した。要請派遣も 35 校に延べ 94 回実施した。
- ・通級指導教室（情緒・言語）センター的機能：小中学校に 1198 回派遣した。
- ・専門家活用：小学校で 1 回実施した。

## (3) 特別支援教育サポート事業

- ・特別支援教育サポート事業の推進（NPO 教育活動総合サポートセンターに委託）  
4 回のサポーター研修を実施した。小・中・高等学校及び特別支援学校に延べ 21,656 回配置した。

## 4 特別支援教育に関わる研修の充実

### (1) 必修研修

- 特別支援教育コーディネーター養成研修（6 回）延べ 437 人
- 特別支援学級等新担任者研修（8 回）延べ 1088 人
- 特別支援学級等新担任者 2 年目研修（3 回）延べ 273 人
- 通級指導教室新担任者研修（6 回）延べ 152 人

### (2) 希望研修

- 特別支援教育Ⅰ コーディネーター専門（4 回）延べ 131 人
- 特別支援教育Ⅱ 通級指導教室専門（6 回）延べ 403 人
- 特別支援教育Ⅲ 「重度の障害がある子への支援」（5 回）延べ 53 人
- 特別支援教育Ⅳ 「聞こえや見え方に課題のある子への支援」（4 回）延べ 32 人
- 特設研修「授業のバリアをやわらげる～読むことが苦手な子に対する支援～」（1 回）44 人

### (3) リクエスト研修

- ・28 年度 27 校、29 年度 18 校、30 年度 26 校（小学校 19 校、中学校 6 校、高等学校 1 校）。発達障害の理解、わかりやすい授業作りに関連する依頼が多く、「わかりやすい授業づくり」という視点を持って授業改善をする意識が高まってきていると思われる。

## 5 特別支援教育推進に関わる研究の実施

### (1) 長期研究員と研究員による研究

- ・「個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして～自己選択・自己決定の視点から～」という研究テーマで、自立活動における自己理解に基づいた自己選択・自己決定について研究した。研究報告会に 138 名が参加した。

### (2) 指導主事研究

- ・第 2 期川崎市特別支援教育推進計画の実施に合わせ、各学校への調査「川崎市特別支援教育体制充実事業アンケート」を行い、校内支援体制や児童生徒に対する支援の効果などの検証を行い、事業の目標や各施策等の改善につなげた。

## 6 教育相談センター事業

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への支援として市内6カ所のゆうゆう広場（川崎市適応指導教室）の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行った。そのほか、スクールカウンセラー配置事業、学校巡回カウンセラー派遣事業による相談活動を行った。また、不登校対策連携会議、不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会を開催した。平成30年度の各事業の状況は次のとおりである。

### 1 教育相談事業の実施状況

#### (1) 来所面接相談の実施状況

##### ① 来所面接相談件数

表1は平成30年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数333件のうち221件が平成31年度に継続されることになった。

[表1-1 平成30年度 来所面接相談件数と終結件数]

	相談件数	終結件数	平成31年度への継続件数
継続	234	88	146
新規	99	24	75
合計	333	112	221

[表1-2 表1-1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）]

		相談件数	終結件数	平成31年度への継続件数
不登校	継続	172	65	107
	新規	72	19	53
いじめ絡み	継続	2	1	1
	新規	4	0	4

##### ② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については10日以内に担当者から連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に指導主事が事前相談を、カウンセラーが通級相談（通級時の初回相談）・継続相談を実施している。

[表2 月別、対象別 来所面接相談総回数]

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所 面接 相談	教育 相談 室	親	159	196	207	201	163	220	211	227	214	177	206	179	2360
		子	89	117	137	130	122	139	143	144	143	129	155	112	1560
	ゆう ゆう 広場	事前相談	17	22	26	16	7	19	28	30	18	19	24	7	233
		通級相談	3	17	12	13	5	3	18	13	10	10	8	1	113
		継続相談	27	47	40	59	15	75	67	47	57	78	72	49	633
	合計			295	399	422	419	312	456	467	461	442	413	465	348

③ 学校コンサルテーション

学校コンサルテーションとは、センターの職員と学校の教職員が、来所している子どもに対してよりよい支援ができるように話し合うことである。

[表3 月別回数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	3	8	7	5	1	4	7	6	4	3	8	2	58

④ 新規来所面接相談の相談内容

[表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳]

	小学生	中学生	高校生	その他	合計	相談件数に占める割合
知能・学業	1	0	0	0	1	1.01%
性格・行動	44	39	9	0	92	92.93%
進路・適性	0	0	0	0	0	0%
身体・神経	0	0	0	0	0	0%
その他	5	1	0	0	6	6.06%
合計	50	40	9	0	99	
不登校(再掲)	28	37	7	0	72	72.73%
いじめ絡み(再掲)	2	1	0	0	3	3.03%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は気軽に相談できる手段としてだけでなく、電話相談から来所相談へとつなげる役割も果たしている。今年度も保護者からの相談が多くあった。

① 電話相談件数及びその内容(午前9時～午後6時)

[表5 電話相談 相談件数及びその内容と内訳]

	就学前		小学生		中学生		高校生		その他	合計			合計
	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人		保護者	本人	他	
知能学業	1	0	52	0	16	1	2	0	5	71	1	5	77
不登校	0	0	36	0	49	2	10	1	8	95	3	8	106
いじめ	0	0	13	8	11	3	2	0	4	26	11	4	41
友人関係	0	0	17	12	3	3	1	4	1	21	19	1	41
性格行動	0	0	15	5	10	4	5	11	14	30	20	14	64
進路適正	23	1	35	0	17	0	14	3	10	89	4	10	103
身体神経	3	0	7	2	3	1	3	4	0	16	7	0	23
教育一般	4	0	93	5	57	12	43	6	55	197	23	55	275
その他	0	0	0	0	1	2	0	1	195	1	3	195	199
合計	31	1	268	32	167	28	80	30	292	546	91	292	929

② 24時間子供SOS電話相談の件数

いじめ問題等、心配なこと、困っていることで悩む子どもや保護者がいつでも相談できるよう、夜間を含めた24時間相談できる体制で取り組んだ。

[表6 24時間子供SOS電話相談 相談件数]

	受付時間	相談者					計
		小学生	中学生	高校生	保護者	その他	
相談 件数	9時～18時	26	18	21	38	127	230
	18時～9時	1	4	2	8	1	16
計		27	22	23	46	128	246
いじめ絡み(再掲)		7	0	0	6	1	14

## 2 研究・研修の状況

### (1) 研究

カウンセラー研究員による研究

「教育相談を生かした生徒指導の在り方～生徒指導担当に求められる力を探る～」

### (2) 研修

- ① 教育相談Ⅰ「キレる子の理解と対応」(305研修) 延べ20名参加
- ② 教育相談Ⅱ「保護者とパートナーになるために」(306研修) 延べ21名参加
- ③ 教育相談Ⅲ「事例検討会」(307研修) 延べ20名参加
- ④ 特設研修「いじめをうまない学級・学校づくり」(004研修) 2回実施 延べ50名参加
- ⑤ リクエスト研修(600研修) 31回実施 延べ1046名参加

### (3) その他

- ① 教育相談宿泊研修「子どもとのあたたかなかわりを求めて」
- ② 新規採用教員研修での教育相談研修「子どもとのかわりで大切にしたいこと」

## 3 「不登校」家庭訪問相談事業

家に引きこもりがちな不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。  
平成30年度は2名の家庭訪問相談員で実施した

[表7-1 平成30年度 家庭訪問相談状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	65	158	0	223
訪問以外回数	14	42	0	56
合計	79	200	0	279

[表7-2 平成30年度 実施後の状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	11	22	0	33
学校復帰者数	3	6	0	9
好ましい変化	2	11	0	13

※ 復帰とは、学校へ週1回程度登校した状態をさす。

#### 4 ゆうゆう広場の活動状況

川崎市適応指導教室は6つの広場が設置されている。不登校の児童生徒が市内のどこからも通いやすい環境を整えられている。各ゆうゆう広場には教育相談員が4名ずつ配置され活動にあたった。平成30年度は24名のメンタルフレンドが、通級している子どもの活動の援助を週1回の割合で行った。

##### (1) 通級状況

[表8-1 平成30年度 学年別、男女別 通級者数]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
	男子	1	1	1		7	5	15	17	49	38	
女子			2	2	5	6	15	29	51	35	115	130
合計	1	1	3	2	12	11	30	46	100	73	219	249

[表8-2 平成30年度 行政区別、男女別 通級者数]

	みゆき			さいわい			なかはら			たかつ			たま			あさお			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
川崎	3	9	12	2	2	4													16
幸	5	6	11	7	7	14		1	1		1	1							27
中原	1	1	2	7	4	11	16	12	28	1	1	2							43
高津							1	12	13	18	27	45							58
宮前								2	2	16	9	25	5		5	4	3	7	39
多摩							2		2		1	1	15	6	21	2	5	7	31
麻生																14	20	34	34
合計	9	16	25	16	13	29	19	27	46	35	39	74	20	6	26	20	28	48	248

たかつ女子1名は市外在住

[表8-3 平成30年度 復帰者数]

小学生	中学生	合計
8	54	62

※ 復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態をさす。

[表8-4 中学校3年生の進路状況]

公立				私立 (サポート校を含む)			専門 学校	就職	フー スクール	家事手 伝い	未定	合計
全日制	定時制	通信制	特別支援	全日制	定時制	通信制						
4	11	2	1	9	0	43	0	1	0	1	1	73

##### (2) 体験活動

ゆうゆう広場全体の取組としてサマーキャンプ、親子ふれあい活動、そのほか広場ごとに講師を招いた各種の体験活動が行われた。

[表8-5 平成30年度 参加者数]

サマーキャンプ (1泊2日)	28
----------------	----

[表8-6 平成30年度 参加者数]

春の親子ふれあい活動（5月）	49
秋の親子ふれあい活動（10月）	68

## 5 スクールカウンセラー配置事業

市内52校の中学校に継続配置しているスクールカウンセラーは、生徒指導担当や養護教諭、特別支援コーディネーターをはじめとする教職員との連携を深めながら相談活動を行った。

[表9 平成30年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数]

①不登校	②いじめ	③暴力	④虐待	⑤友人関係	⑥貧困	⑦非行・不良行為
10747	143	56	85	1529	16	98
⑧④⑥を除く 家族関係	⑨教職員との 関係	⑩心身の健康・ 保健	⑪学習・進路	⑫発達障害等	⑬その他の主訴	合計
1279	283	2243	1249	1861	742	20331

・スクールカウンセラー連絡協議会・研修会開催日

4月17日（火） 7月5日（木） 11月16日（金） 2月13日（水） 計4回

## 6 学校巡回カウンセラー派遣事業

学校巡回カウンセラー7名を教育相談センターへ配置し、市立小学校・特別支援学校・高等学校への派遣を行った。また、市立学校における事件事故に関わる緊急支援としての派遣を行った。相談件数は増加しており児童生徒及び保護者、学校に対する支援の充実につながっている。

[表10 平成30年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談件数]（緊急支援を含む）

小学校・特別支援学校	中学校	高等学校	計
116	2	139	257

[表11 平成30年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	教員	計
小学校	403	20	393	816
中学校	1	2	3	6
特別支援学校	0	22	22	44
高等学校	104	490	543	1137
計	508	534	961	2003

## 7 不登校対策連携会議

不登校対策にかかわる施設や関係機関の職員30名が集まり、年2回の不登校対策連携会議を開催し、連携強化を図った。

## 8 不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会及び進路情報説明会

平成30年9月16日（日）高津市民館において、県教育委員会・フリースクール等と連携して「不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会」を実施した。

保護者や児童生徒など238名が来場し、171件の個別相談が行われた。

## 7 広報及び刊行物等

### 1 川崎市総合教育センター所報

[発行] 平成30年6月、平成31年1月

[発行部数] 6,600部（A4版）

[主な記事] 第1号「【巻頭言】チーム力向上のために～安心感～」

「カリキュラムセンター 事業・業務」

「【特集】新学習指導要領全面実施に向けて」

「情報・視聴覚センター 事業・業務」

「【特集】プログラミング教育」

「特別支援教育センター 事業・業務」

「教育相談センター 事業・業務」

「平成30年度 研究推進校一覧」

第2号「【巻頭言】Society5.0の時代 「人間の強み」を生かす」

「カリキュラムセンター 全国学力・学習状況調査の結果を  
学校全体の取組に生かす」

「情報・視聴覚センター 教育の情報化推進事業」

「【特集】特別支援教育センター

川崎市の就学相談についてご紹介します」

「教育相談センター 子どもに寄り添った支援のために」

### 2 総合教育センター要覧 平成30年度

[発行] 平成30年8月

[発行部数] 700部（A4版）

[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

### 3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部数
1	事業報告書	9月	A4	48	600
2	ともに生きる ～多文化共生の社会をめざして～	3月	A4	53	400
3	はたらくひとびと（職業理解資料）	3月	A4	16	17000
4	はたらくひとびと活用事例集	3月	A4	24	2,000

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
5	みんな輝いているかい 指導資料	9月	A 4	24	700
6	わたしもあなたも輝いて 指導資料	9月	A 4	24	500
7	かがやき 小1 (子どもの権利学習資料)	10月	A 4	8	16,000
8	みんな輝いているかい 小5 (子どもの権利学習資料)	10月	A 4	16 別冊4	16,000
9	わたしもあなたも輝いて 中1 (子どもの権利学習資料)	10月	A 4	16 別冊4	12,000
10	教育課題研究 X VIII	3月	A 4	24	6,900
11	小学校「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を 伸ばす学習指導と評価の工夫改善	3月	A 4	50	冊子9,000 CD4,200
12	中学校「学ぶ意欲を育て、『生きる力』を 伸ばす学習指導と評価の工夫改善	3月	A 4	36	9,370
13	小・中学校「自主・自立」「共生・協働」 を目指した教育課程編成のための資料 I 総則	3月	A 4	56	6,300
14	みんなで学ぼう みんなで語ろう (川崎市立高校定時制案内)	10月	A 4	8	2,600
15	各教科等の指導において 一層の創意工夫を図るための資料	7月	A 4	82	900
16	川崎市立高等学校教育実践の記録	12月	A 4	96	656
17	夢を育てよう	5月	A 4	4	12,000
18	研究紀要 第28号	4月	A 4	195	450
19	研修案内	4月	A 4	76	500
20	研修一覧	4月	B 2	1	300
21	副読本かわさき2018	3月	A 4	190	14,100
22	海外帰国・外国人児童生徒指導の手引き Q & A	4月	A 4	34	250
23	初任者研修の手引き	4月	A 4	60	600
24	はじめて教員になった人のために	4月	A 4	88	900
25	初任者研修 研修ノート	4月	A 4	44	950

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
26	初任者研修 宿泊研修のしおり	7月	A 4	42	590
27	10年経験者研修 研修の手引き	4月	A 4	26	500
28	10年経験者研修 研修ノート	4月	A 4	35	500
29	川崎市立小学校学習状況調査報告書	9月	A 4	105	430
30	川崎市立中学校学習状況調査報告書	2月	A 4	292	200
31	平成29年度中学校数学初任者研修報告書	2月	A 4	29	100
32	小学校保健体育学習指導の手引き	3月	A 4	200	300
33	新学習指導要領に基づく授業改善の手立て	3月	A 4	40	6,000
34	習熟の程度に応じたきめ細やかな指導 ～実践編～	3月	A 4	45	4,500
35	教育相談宿泊研修実践記録集	3月	A 4	45	300
36	スクールカウンセラー配置事業報告書	5月	A 4	102	135
37	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	4月	A 4	20	300
38	特別支援学校担任のためのハンドブック	3月	A 4	44	200
39	川崎市特別支援教育体制充実事業 事業報告	3月	A 4	35	300
40	5分でわかる情報教育Q & A	3月	A 4	82	1,500
41	川崎市立学校における教育の情報化推進 計画	3月	A 4	73	800

#### 4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書

# 平成30年度 事業報告書

令和2年3月

編集・発行 川崎市総合教育センター

所在地 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

TEL 044-844-3600

FAX 044-844-3604

E-Mail [KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp](mailto:KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市